第三十七條　此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十三年布告第四十號同年布告第四十一號同十六年布告第四十二號及同二十二年法律第二十四號ハ此ノ稅法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十九年九月三十日前檢査濟石數ニ係ル造石稅ニ關シテハ仍明治十三年布告第四十號ニ依ル

第三十八條　沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅法ヲ施行セス

◎自家用酒稅法（明治廿九年三月法律第二十九號）

第一條　濁酒、白酒、燒酎ニ限リ自家用トシテ製造セムトスル者此ノ稅法ニ依リ製造免許ヲ出願スルトキハ政府ハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條　自家用酒ノ製造免許ハ一家一人ニ限ル其ノ造石數ハ各酒類ヲ合セテ一酒造年度間（其ノ年十月ヨリ翌年九月マデ）二石以下トス但シ直接國稅ヲ納メサル者及其額五圓未滿ノ者ハ其造石數一石ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　自家用酒ノ製造ヲナス者ニハ每年度左ノ製造稅ヲ課ス

一　前條但書ニ該當スル者　金二圓

二　直接國稅五圓以上十圓未滿ノ者　金三圓

三　石　金八圓

四　石　金十圓

第四條　製造稅ハ之ヲ二分シ其ノ年十月及翌年四月ヲ以テ納期トス但シ納期後ニ免許ヲ受クルトキハ卽納トス

第五條　左ニ揭クル者及其ノ家族、同居者、同居ノ雇人ハ自家用酒製造ノ免許ヲ請フコトヲ得ス

一　直接國稅十圓以上ヲ納ムル者

二　酒類製造營業人及酒類販賣人

三　醬油製造營業人及醬油販賣人

四　酒母又ハ醪製造人及酒母販賣人

五　酢製造營業人及酢販賣人

六　料理店、飲食店、旅人宿營業者

自家用酒製造ノ免許ヲ得タル者前各號ノ一ニ該當スルニ至ルトキハ其免許ノ効力ヲ失フモノトス

第六條　自家用酒ハ製造ノ免許ヲ受ケタル者ノ各自ノ居宅域內ニ限リ之ヲ製造スルコトヲ得

第七條　收稅官吏ハ自家用酒製造者ニ就キ檢査ヲ爲スコトヲ得

第八條　自家用酒製造者其ノ製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ其居宅域外ニ於テ自家用酒ヲ製造シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　自家用酒製造者免許限ヲ超過シテ酒類ヲ製造シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ超過石數ニ對シ酒造稅法第四條ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ即時之ヲ徵收ス

第十條　自家用酒製造者元用トシテ清酒、味淋、酒精ヲ製造スルコトヲ得ス

第十一條　第七條ノ檢査ニ關シテハ酒造稅法第三十條ヲ適用ス

第十二條　此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第十三條　自家用酒製造者ノ家族、雇人、同居者ニシテ其ノ製造ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ此ノ稅法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

附則

第十四條　此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十九年勅令第六十號ハ此ノ稅法施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條　沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ稅法ヲ施行セス

●混成酒稅法　明治廿九年三月　法律第三十號

第一條　此ノ稅法ニ於テ混成酒ト稱スルハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一　酒精ト他ノ物品トヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

二　二種以上ノ飲料酒類ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

三　一種又ハ二種以上ノ飲料酒類ト他ノ物品ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

四　飲料酒類ニ酒精若ハ燒酎ト水ヲ混和シタルモノ

第二條　混成酒ヲ製造スル者ニ其ノ造石數一石ニ付金六圓ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

混成酒元用トシテ酒造稅法ニ揭クル酒類ヲ製造スル者ニハ該稅法ノ造石稅ヲ課ス

第三條　第一條第四號ノ混成酒ヲ製造スルモ別種ノ飲料トナラス單ニ酒造稅法ノ酒類ノ造石數ヲ增加スルニ止ルモノハ其ノ增加石數ノミニ課稅ス

第四條　造石稅ノ納期ヲ左ノ二期トス但シ廢業シタル者ハ即納トス

第一期　其ノ年七月一日ヨリ同三十一日限
一月一日ヨリ六月三十日迄査定濟石數ニ係ル稅額
第二期　翌年一月一日ヨリ同三十一日限
七月一日ヨリ十二月三十一日迄査定濟石數ニ係ル稅額

第五條　混成酒ヲ製造スル者ハ收稅官吏ノ認許ヲ受クルニ非サレハ其ノ製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第六條　第五條ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　酒造稅法第二條、第七條、第八條、第十一條、第十二條、第十八條第十九條、第二十二條第一項、第二十四條、第二十五條、第二十八條、第二十九條、第三十條、第三十一條、第三十二條、第三十六條ハ混成酒ノ製造ニ適用ス

附　則

第八條　此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

第九條　沖繩縣東京府管下小笠島伊豆七島ニハ當分此ノ稅法ヲ施行セス

●酢元用酒類製造規則　明治十六年十二月第二十二號布告

酢元營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅、第四條第貳項第三項ヲ除クノ外該規則ニ準據スヘシ第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未濟ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價追徵ス

●酒精營業稅法　明治二十六年四月法律第十七號

第一條　酒精（アルコール）又ハ他物ト混和シタル酒精ヲ販賣スル營業者ヲ分テ左ノ二種トス

甲種營業人　本條ノ物品ヲ製造シ又ハ買入レ之ヲ自用者ニ非サル者ニ販賣スル者

乙種營業人　本條ノ物品ヲ製造シ又ハ甲種營業人ヲ經由セスシテ買入レ之ヲ自用者ニ販賣スル者

第二條　本法ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ先ツ管廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條　營業ノ免許ヲ受クル者ハ政府ノ定ムル所ニ從ヒ保證金トシテ十圓以上千圓以下ヲ現金又ハ國債證券ヲ以テ供託スヘシ

第四條　本法ノ稅金ヲ滯納シタルトキハ保證金ノ一部又ハ全部ヲ以テ稅金ニ充ツ仍不足スルトキハ明治二十二年法律第三十二號國稅滯納處分

法據ヲ處分スヘシ

第五條　免許ヲ受ケタル者ハ左ノ算程ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ

甲種營業人　酒精（アルコール）一石ニ付金二十五圓ノ割合

乙種營業人　酒精（アルコール）一石ニ付金二十五圓ノ割合

營業人ヲ經由セスシテ第一條ノ物品ヲ買取リ消費スル者ハ本條ニ準シテ納稅スヘシ

第六條　營業稅ハ翌年一月三十一日限之ヲ納ムヘシ但シ廢業スル者ハ其ノ際營業稅ヲ納ムヘシ

前項ノ期限內ト雖營業稅高第三條ノ保證金高ニ超過スルトキハ先ツ其ノ稅金ヲ納メテ後之ヲ販賣スヘシ

第七條　第一條ノ物品ヲ醫藥用又ハ工業用ニ供スル者（港酒家ヲ除ク）ハ勅令ヲ以テ定ム所ノ規定ニ從ヒ其ノ營業稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第八條　營業者ハ帳簿ヲ調製シ第一條物品ノ出入ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ主任官吏ノ檢定ヲ受クヘシ

第九條　主任官吏ハ正當ノ命令ニ依リ營業者ノ營業ニ關スル帳簿物品等ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十條　無免許ニテ營業シタル者ハ其ノ現在酒精類及營業用ノ物品器械ヲ沒收シ營業稅三倍ノ罰金ニ處ス但シ已ニ賣捌キタルモノハ其ノ代價ヲ追徵ス

第十一條　帳簿ノ記載ヲ僞リ若ハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ圖リ又ハ脫稅シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　本法ハ明治二十六年七月一日ヨリ施行ス

◉酒精營業稅法施行細則

明治二十六年六月二日大藏省令第十號

酒精營業稅法施行細則

第一條　酒精營業ノ免許ヲ受ケントスル者ハ一箇年販賣見込石量ヲ記載シタル願書及保證金供託受領証ヲ管廳ニ差出シ營業場一箇所每ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

營業場ハ倉庫建物ノ棟數ニ拘ハラス總テ一區域ヲ以テ一箇所トス其區

域外ニシテ營業物品ヲ藏置スルニ止マル場所ハ許可ヲ受ケ營業場ノ附屬トナスコトヲ得

第二條　保証金額ハ稅務管理局長之ヲ指定ス

一旦指定シタル保証金額ニシテ相當ヲ失スルニ至リタリト認ムルトキハ其ノ指定金額ヲ變更スヘシ

徵稅ニ因リ保証金額ニ欠減ヲ生シタルトキハ直チニ之ヲ補充スヘシ

第三條　免許鑑札ヲ受クル者ハ鑑札料金二拾錢ヲ納ムヘシ第十條ノ場合ニ於テモ亦同シ

鑑札料ハ明治二十五年大藏省令第三號ニ依リ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第四條　稅法第三條保証ニ充ツル國債証券ノ種類及價格ノ割合左ノ如シ

一　有利國債証書　一　大藏省証券

國債証書ハ明治二十三年勅令第四號第三條ノ價格ニ大藏省証券ハ其券面ノ金額ニ依ル

第五條　稅法執行ニ關スル書類ハ營業場ニ送達スルモノトス但シ營業者ノ不在等送達シ能ハサル事情アルトキハ其ノ趣旨ヲ三日間官報若ハ新聞紙ニ公告シテ送達ニ代フルコトアルヘシ

第六條　免許ヲ受タル者ハ營業開始後七日以内ニ其營業場ニ使用スル機械容器類ノ目錄竝ニ地所諸建物ノ圖面ヲ所轄間稅分署ニ差出スヘシ

但異動ヲ生シタルトキハ其時々屆出ツヘシ

第七條　營業者ハ稅法第八條ニ基キ營業ノ種類ニ從ヒ左ノ帳簿ヲ調製シ其使用前所轄間稅分署ニ差出シ其檢定ヲ受クヘシ

一　酒精製造帳又ハ買入帳　一　酒精賣上帳

一　製造原料品買入及遣拂帳

稅法第五條第二項ニ該當スル者ハ酒精買入帳及使用帳ヲ調製スヘシ

第八條　第七條ノ帳簿及左ノ帳簿書類ハ附込書又ハ受授ノ翌年ヨリ三年ヨリ少ナカラサル期間保存スヘシ

一　營業ニ關スル金錢物品判取帳

一　營業ニ關スル送狀、仕切書及受取書

第九條　營業者ハ毎年其販賣酒精ノ石量又稅法第五條第二項ニ該當スル者ハ其消費高ヲ翌年一月七日限リ管廳ニ屆出ツヘシ但營業者廢業ノトキハ其際之ヲ屆出ツヘシ

稅法第六條第二項ノ場合ニ於テハ販賣前其超過スヘキ見込石量ヲ屆出ツヘシ

營業稅額ハ前各項ノ屆出ニ依リ地方長官之ヲ査定ス

第十條　營業場ヲ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ヘ申出テ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ他ノ管轄地ヘ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出テ添書ヲ受ケ之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

鑑札ヲ遺失毀損シタルトキハ直ニ管廳ニ屆出テ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

第十一條　代替リノトキ又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ管廳ニ屆出テ免許鑑札ニ變更ノ記入ヲ請フヘシ

第十二條　營業者及稅法第五條第二項ニ該當スル者酒精ヲ買入レタルトキハ直チニ左ノ事項ヲ具シ所轄稅務署ニ屆出ツヘシ但シ買入ニ係ル酒精他ノ管轄地內ニ現在スルトキハ其ノ酒精ノ發送前更ニ酒精現在地ノ所轄稅務署ニ屆出ツヘシ

一賣渡人住所氏名

一買入酒精ノ數量及其ノ現在地

第十五條　營業者廢業スルトキハ管廳ニ申出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第十六條　第十二條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第六條第八條第九條第十條第十一條第十三條第十四條第十五條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

◎醫藥用及工業用酒精營業稅免除ニ關スル件　明治二十六年五月　勅令第五十八號

第一條　酒精營業稅法第七條ノ醫藥用トハ日本藥局方ニ據リ製藥用ニ供スルモノ又ハ醫術用ニ供スルモノヲ云ヒ工業用トハ工藝製作ノ用ニ供スルモノヲ云フ

第二條　醫藥用ノ爲メ酒精ヲ販賣又ハ使用スル者ニシテ營業稅ノ免除ヲ請ハントスル者ハ豫メ管廳ニ申出テ認許ヲ受クヘシ

第三條　前條ノ認許ヲ受ケタル者ハ醫藥用外ニ酒精ヲ販賣又ハ讓與スルコトヲ得ス

第四條　第二條ノ認許ヲ受ケタル者ハ醫師ノ證明書ヲ所持スル自用者、醫師、藥劑師、藥種商及製藥者ノ外ニ酒精ヲ販賣又ハ讓與スルコトヲ得ス

第二條ノ認許ヲ受ケタル者ヨリ酒精ヲ買受ケ又ハ讓受ケタル醫師若クハ藥劑師、藥種商及製藥者ニ於テ其酒精ヲ自用者ニ賣渡シ又ハ讓渡シ

得ルハ其自ラ診療スル患者若クハ醫師ノ證明書ヲ有スル者ナル場合ニ限ル

第五條　第二條ノ認許ヲ受ケタル者ヨリ酒精ヲ買受ケ又ハ讓受ケタル醫師、藥劑師、藥種商及製藥者ハ其酒精ヲ醫業用外ニ使用スルコトヲ得ス

第六條　第二條ノ認許ヲ受ケタル者醫藥用ノ爲メ酒精ヲ販賣スルトキハ其都度量數代價及買受人ノ住所、職業、氏名（醫師ノ證明書ヲ所持スル自用者ニ販賣シタル場合ハ住所氏名）ヲ帳簿ニ詳記シ每一箇月分ノ月計ヲ附記シ左ノ書類ト共ニ翌月五日限リ管廳ニ差出シ帳簿ニ免稅ノ檢印ヲ受クヘシ其使用又ハ讓與ニ係ルモノモ亦之ニ準スヘシ

一　醫師ノ證明書又ハ買受人若クハ讓受人ニ於テ量數、年月日、住所、職業及氏名ヲ記載シ捺印シタル注文書、物品領收書等

第七條　第二條ノ認許ヲ受ケタル者ヨリ酒精ヲ買受ケ又ハ讓受ケタル醫師、藥劑師、藥種商及製藥者ハ其都度量數代價及賣渡人若クハ讓渡人ノ住所氏名ヲ帳簿ニ記載シ置クヘシ

前項ノ酒精ヲ販賣スルトキハ其都度量數代價及買受人ノ住所氏名ヲ帳簿ニ詳記シ醫師ノ證明書（醫師ノ場合ニ於テハ處方書）ヲ添ヘ置クヘシ其使用又ハ讓與ニ係ルモノモ亦之ニ準スヘシ

前各項ノ帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第八條　工藥用酒精ニ係ル營業稅ノ免除ヲ請ハント欲スル者ハ販賣若クハ使用以前ニ管廳ニ其量數ヲ屆出ツヘシ此場合ニ於テハ當該官吏ハ百分ノ八乃至十ノ割合ヲ以テ願人ノ望ニ從ヒ水精（メチールアルコール）若クハ石油ヲ混和スヘシ但其物品ノ費用ハ願人之ヲ負擔スヘシ

第九條　第三條第四條第五條ヲ犯シタル者及第六條第七條ノ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

㊟醋麴營業稅則（明治十三年九月第四十一號布告）

第一章　免許鑑札營業稅

第一條　凡ソ醋麴（醋道ノ類）ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所每ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

醋麴營業稅　金五拾圓

第二條　營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條　一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

第四條　免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數每年十月中管廳ヘ屆出ヘシ

第五條　販賣ノ節ハ其石數幷ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳

簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受クヘシ

醋麹又ハ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢査スヘシ（十五年第六十二號布告ニテ本條ニ項目追加ス）

第六條　免許鑑札ヲ賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條　免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條　免許ヲ受ケタル者ハ醋麹賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戸外ニ掲出スヘシ

第二章　禁令　罰令

第九條　免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條　免許鑑札ヲ受ケス醋麹ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條　前各條ノ外販賣ノ節石數幷ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

第十二條　醋麹營業場ノ中ニ於テハ酒類（醋麹ヲ除ク）ヲ製造スルヲ許サス（十五年第六十二號布告ニテ本條以下追加ス）

第十三條　第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收スヘシ

第十四條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論非及ヒ減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十五條　醋麹營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

醤油稅則（明治二十一年六月勅令第四十七號）

第一條　醤油（溜ヲ併稱ス）製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ　但製造人十六歳未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

（第二條以下ノ營業稅ニ關スル條項ハ卅年四月法律第六十四號ニテ刪除）

第五條　醤油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ

造石數査定濟ノ醤油ト査定未濟ノ醤油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條　醤油製造人廢業ノ際査定未濟ノ醤油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ但其醤油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限リ管廳ニ申出檢査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醤油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未濟ノ醤油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條　免許鑑札ハ貸借賣買及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　醤油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醤油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條　醤油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ屆出タル後ニ非サレハ造石數査定未濟ノ醤油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條　醤油製造人ハ造石數査定未濟ノ醤油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條　造石稅ノ査定ヲ經タル醤油其造石稅期納內ニ天災又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ廢棄ニ歸シタルトキハ直ニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條　醤油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條　外國ニ輸出スル醤油ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受ケ置キ輸入港稅關　陸揚免狀若クハ其他証憑ト爲ルヘキ類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ步合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醤油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港稅關ニ還納スヘシ

第十四條　醤油製造人ノ製造スル醤油ハ他ノ依託ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此稅則ニ從フヘシ

醤油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醤油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十五條　醤油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醤油ヲ製造スルコトヲ得ス、其同居者亦同シ

第十六條　自家用料ノ爲メ製造シタル醤油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十七條　醤油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醤油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其証票ヲ携帶スヘシ

第十八條　當該官吏ニ於テ此稅則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入リ証憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其

証票ヲ携帯スヘシ

第十九條　免許鑑札ヲ受ケスシテ醤油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス仍ホ其醤油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十條　醤油製造人ニシテ醤油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醤油及容器ヲ沒收ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條　第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及逋税ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル醤油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十二條　第七條ヲ犯シタル者第六條ノ檢査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　此税則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第二十四條　此税則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十五條　醤油製造人ノ家屬雇人ニシテ此税則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醤油製造人十六歳未滿、幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此税則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條　此税則施行細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條　此税則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附　則

第二十八條　北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此税則ヲ施行セス但此税則施行ノ地ニ輸送スル醤油ヲ製造スル者ハ此税則ニ從フヘシ

第二十九條　此税則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醤油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者、後見人ヲ立テ三　以内ニ管廳ニ屆出ヘシ

◎醤油税則施行細則　明治二十一年八月大藏省令第九號

第一條　税則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其製造場ノ倉庫及ハ建物ノ棟數ニ拘ハラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トナシ之ニ關スル地所建物、位置及坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査濟ノ醤油又ハ製造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲スコトヲ得

第二條　二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出テ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ社則ヲ添ヘ其頭取ノ名ヲ以テ願出ヘシ

第三條　免許鑑札ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ醤油製造用器械ノ種類員數目錄ヲ所管租税檢査員派出所ニ屆出ヘシ

第四條　第三條及同條但書ノ倉庫建物第三條ノ製造用器械ニ增減變換ヲ生シタルトキハ其時々所管租税檢査員派出所ニ屆出ヘシ

第五條　醤油製造人ハ毎年一月中其年仕込並査定ヲ受クヘキ見込石數並其製造方法ヲ所管租税檢査員派出所ニ屆出ヘシ但前年ノ製造方法ニ據ルモノハ其旨ヲ屆出ヘシ

新タニ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ其翌日ヨリ十五日以内ニ前項ノ屆出ヲ爲スヘシ

第六條　醤油製造人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ税則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第七條　醤油製造人他ヨリ醤油ヲ買入タルトキハ其石數年月日買入先ヲ帳簿ニ記載シ置クヘシ

第八條　醤油製造用ノ容器ハ使用以前之ヲ檢定スヘシ（明治二十九年九月大蔵省令ニテ改正）

第九條（全上ニテ刪除）

第十條　醤油製造人廢業シタルトキハ直ニ管廳ニ屆出鑑札ヲ還納スヘシ

第十一條　改名代替リ若クハ鑑札ヲ失却毀損シ又ハ住所製造場ヲ移轉シタルトキハ左ノ期日内ニ鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

一　代替書替ハ　六十日間　一　其他ノ書替再渡ハ　十日間

第十二條　製造場ヲ他府縣ヘ移轉セントスルモノハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出添書ヲ受ケ二十日以内之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第十三條　税則第六條第二項ノ場合ニ於テ査定濟ニ係ル造石税ハ税則第四條ノ納期ニ至リ之ヲ納ムルコトヲ得

第十四條　税則第十一條ニ依リ造石税ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢業石數等ヲ詳記シ所管租税檢査員派出所ニ申出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨檢シ事實相違ナシト認スルトキハ該造石税免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條　造石數査定未濟ノ醤油漏溢其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄シタルトキハ直ニ所管租税檢査員派出所ニ屆出ヘシ

第十六條　醤油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

○醤油税則施行細則

醤油製造原品買入帳　醤油麹製造帳

醤油仕込帳　醤油賣揚帳

第十七條　税則及ヒ此細則ニ掲クル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三箇年間保存スヘシ

第十八條　税則第十三條ニ依リ外國輸出醤油ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ其製造地名、名稱、石數、箇數、輸入地名、積込船名等ヲ記シタル書面ヲ税關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査濟證明書ヲ受クヘシ

第十九條　造石税ノ下戻ヲ請フニハ外國輸入セシ證憑ヲ類ノ當初輸出ノ際受ケタル所ノ證明書ヲ添ヘ税關ニ申出ヘシ

第二十條　輸出醤油造石税下戻ノ歩合ハ其製造セシ府縣管内ニ於テ前一箇年中諸味一石ヨリ製成シタル平均歩合ニ據リ其石數ヲ算定スルモノトス

第二十一條　税則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名、石數、箇數及當初下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記シタル書面ヲ税關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十二條　税則及此細則ニ於テ石數ノ合位税金ノ厘位ニ滿タサルモノハ切捨トス

第二十三條　税則第二十九條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第二十四條　第一條但書ノ許可ヲ受ケサル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條　此細則ニ關スル帳簿記載方其他書式等ノ手續ハ府縣知事之ヲ定ム

◉藥品營業並藥品取扱規則　明治二十二年三月　法律第十號

第一章　藥劑師

第一條　藥劑師ト ハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條　藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年齡滿二十年以上ニシテ内務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル

第三條　藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ニ願出ヘシ

第四條　藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手數料金壹圓ヲ納ムヘシ

第五條　藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ內務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第六條　藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ內務省ニ願出ヘシ

第七條　書換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手數料金壹圓ヲ納ムヘシ

第八條　藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以內ニ地方廳ニ屆出ヘシ

第九條　藥劑師ニ非ラサレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條　藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以內ニ地方廳ヘ屆出ヘシ

第十一條　藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

但支局ヲ設クルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條　藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條　藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ「サンチグラム」ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條　藥劑師ハ患者ノ氏名、年齡、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アル時ハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス

藥劑師ハ調劑錄ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ

第十五條　處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條　處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省略シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス

第十七條　毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條　毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルヿヲ得ス

但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラス

第十九條　患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ內外用ノ別、用法、用量、年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章　藥種商

第二十條　藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條　藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十二條　毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第三章　製藥者

第二十三條　製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條　製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十五條　毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第四章　藥品販扱

第二十六條　日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性狀、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條　日本藥局方ニ記載セル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性狀、品質該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルヿヲ得ス

何レノ藥局ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ檢査ヲ經其試驗成蹟ヲ記スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條　藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條　毒藥ハ他ノ藥品ト區別　毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條　毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條　毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス

第三十二條　毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥　劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條　藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三十四條　藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

第三十五條　毒藥劇藥ノ品目ハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條　藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅甸語又ハ他ノ外國語ヲ併記スルハ妨ケナシ

第三十七條　藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十八條　內務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ監視員ハ巡視ノ際其證票ヲ携帶スヘシ

第五章　罰則

第三十九條　官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二十九條第三十條第二項第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十二條　內務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條　醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコトヲ得

第四十四條　此規則施行以前ニ於テ內務省ヨリ藥舗開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効ヲ有ス

第四十五條　阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年第二十一號布告ニ據ル

第四十六條　醫科大學藥學科及高等中學校醫學部藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ內務大臣ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ（二十五年六月法律第六號ニテ追加セラル）

第四十七條　此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

第四十八條　明治十三年（一月）第一號布告藥品取扱規則ハ此規則ノ日ヨリ廢止ス

藥用阿片賣買幷製造規則

明治十一年八月第二十一號布告

明治三年八月布告阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買並製造規則左ノ通相定候條此旨布告候事　但施行ノ時日ハ追テ內務省ヨリ可相達事

藥用阿片賣買並製造規則

第一條　阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條　藥用阿片ハ其內國產若クハ外國產ヲ論セス總テ內務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上ケ地方廳ヲシテ阿片御賣特許藥舖ニ之ヲ拂下ケシムヘシ（二十年勅令第五十二號ニテ改正但書削除セラル）

第三條　地方廳ヨリ拂下クル阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ毎器衞生試驗所ノ印紙ヲ貼付スルモノトス（二十年勅令第五十二號ニテ改正セラル）

第四條　地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ量リ一管內相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ撰ミテ內務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ內務省ニ返納ス可シ

第五條　特許鑑札ヲ受ケタル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管內ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報告ス可シ但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速カニ報告スヘシ

第六條　特許鑑札ヲ受ケタル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置ク可シ

第七條　特許ヲ受ケタル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度該地方廳ニ申立テ其拂下ヲ請フヘシ但候乏ノ節ハ臨時拂下ヲ請フヲ得（二十年勅令第五十二號ニテ改正セラル）

第八條　凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルトキハ其量目幷ニ其住所氏名及ヒ年月日（病院ハ其名稱及ヒ院長若クハ副長ノ姓名）ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四十匁ヲ超ユヘカラス

但シ病院及ヒ醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルトキハ一般藥舖相互ニ賣買スルヿハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ユヘカラス

第九條　凡テ內外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖幷一般藥舖ニ於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條　特許藥舖ハ毎半年分阿片拂受幷ニ一匁以上賣捌ノ高及ヒ買人ノ住所姓名並ニ一匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ作リ其管轄廳ニ

差出スヘシ尤モ一匁以下ノ分ハ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供ス可シ　但シ管轄廳ハ其一通ヲ内務省ニ進達スヘシ

第十一條　醫師病院一般藥舗ニ於テハ毎半年必スシモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條　藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培用採收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條　阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ノ買上ケヲ願フヘシ右買上ケヲ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルヿヲ許サス但内務省ニ於テ其品位藥用ニ適セサルモノトスル時ハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其廳ニ返リ置クヘシ（二十年勅令第五十二號ヲ以テ但書追加ス）

第十四條　阿片賣上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歳ノ豐凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アルヘシト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該藥王用ノ性分即チ「モルヒネ」ノ多少ニ因ルヘシ

第十五條　内務省ニ於テ買上ケ及ヒ拂下クル阿片ノ「モルヒネ」含量ハ買上ケ品ハ百分中ニ九分以上拂下ケ品ハ百分中ニ十分以上ヲ含有スルモノトス

第十六條　此規則ニ違犯スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收シ百五拾圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第一章　賣藥規則（明治十年一月布告第十號）

第一條　此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥溶劑散藥煎藥等ヲ調製シ功能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ（十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正）

第二條　此賣藥ヲ業者ハ藥味分量用法服量効能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ（十一年第二十七號布告ヲ以テ（管轄廳）ノ下八字ヲ削ル）

但免許ヲ受ケタル者二箇ニ以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ク可シ（十五年第五十二號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス）

第三條　管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製造配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラス取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サヽルヘシ（十七年第二十七號布告ヲ以テ（内務省）ヲ（管轄廳）ト改メ毒藥）ノ上ニ劇藥）ノ二字ヲ加フ）

第四條　（第八條ニ記シタル期限中）藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スル者其由ヲ屆出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受ク可シ

第五條　賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及營業者ト取結ヒタル約定

書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出免許鑑札ヲ受ク可シ（十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正シ十一年第二十七號布告ヲ以テ（鑑札ヲ受ク）ノ下十三字ヲ削リ（ク）ノ一字ヲ加フ）

第六條　賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲ク可シ

第七條　賣藥營業者及請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サントスルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ屆出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第八條　營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尚免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受ク可シ（十九年十一月二十五日勅令第七十二號ヲ以テ（營業免許期限）ヲ廢ス）

第九條　（第八條ニ記シタル期限中）第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スルトキハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ

第十條　免許（期限）內ト雖モ其製藥第三條ニ掲クル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製造ヲ粗惡ニスル等ノ事アル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルヿアルヘシ（十一年第二十七號布告ヲ以テ（有毒ヲ（有害ニ改ム））

第十一條　營業者廢業スルカ又ハ禁止セラルヽ時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條　諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ屆出再ヒ之ヲ願受ク可シ

第十三條　免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フ可シ

第十四條　賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ鑑札名前書換ヲ請フ可シ（十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正）

第十五條　賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタルトキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納ス可シ

第二章

第十六條　賣藥營業者（賣藥請賣者）ハ左ノ通稅金（鑑札料ヲ上納ス可シ（十四年第二十六號布告ヲ以テ（賣藥請賣者）ノ下及ヒ請賣者ノ五字ヲ削リ（右鑑札料ノ次）（賣藥請賣鑑札料）及ヒ（賣藥行商鑑札料）ノ二項ヲ削ル）

賣藥營業稅　藥劑一方ニ付一ケ年　金貳圓

右鑑札料　藥劑一方ニ付一枚　金貳拾錢

但第二條但書ニ因リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所每ニ本文ノ稅金幷鑑札料ヲ納ム可シ（十五年第五十二號布告ヲ以テ但書追加ス）

第十七條　水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ム可シ

第十八條　稅金ハ每年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年

分ハ七月三十一日限鑑札料ハ其都度幷ニ管轄廳ニ上納ス可シ

第十九條　稅金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ日割ヲ以テ稅金ヲ納メシム可シ（十一年第二十七號布告ヲ以テ有毒ニテ有害ニ改ム）

第三章

第二十條　無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科ス可シ

第二十一條　無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科ス可シ

第二十二條　免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ衒惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第二十三條　無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ（十四年第二十六號布告ヲ以テ營業スル者ノ下卅八字ヲ追加ス）

第二十四條　諸鑑札ヲ僞造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贋造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第二十五條　私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第二十六條　以上ノ犯則者ヲ早屆ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フ可シ

●賣藥印紙稅則（明治十五年十月布告第五十一號）

第一條　賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅割合	
一定價壹錢迄	印稅壹厘
一仝　三　迄	仝　三厘
一仝　拾錢迄	仝　壹錢
一仝　貳錢迄	印稅貳厘
一仝　五錢迄	仝　五厘

以上總テ五錢迄每ニ五厘ヲ增加ス

第二條　印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘	淡黑色	貳厘	青色	三厘	黃色
五厘	茶褐色	壹錢	赭色	貳錢	綠色
三錢	濃青色	四錢	橙黃色	五錢	紫色
拾錢	深紅色				

第三條　印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條　賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條　營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　賣藥者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス（印紙貼用雛形圖面略ス）

第一條　凡ソ財產ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條　證書帳簿ヲ分テ二類トシ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ揭クル處ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラス下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用ス可シ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フヿヲ得

一當座預金引出小切手	印稅	五厘
一委任狀	同	五厘
一金高記載ナキ約定證文	同	壹錢
一遺金物證文	同	壹錢
一跡式讓證文	同	壹錢
一讓與證文	同	壹錢
一期限ヲ定メサル預リ金證文	同	壹錢
一耕地小作證文	同	壹錢

○證券印稅規則

一雇人請合狀　同　壹錢
一金高記載ナキ諸物品預リ證文　同　壹錢
一金高記載ナキ諸物品借用證文　同　壹錢
一地所家屋預リ證文　同　壹錢
一諸物品切手　同　壹錢
一借地借家證文　同　壹錢
一賣買仕切書　同　壹錢
一保險證文　同　壹錢
一諸會社株券　同　壹錢
一送金手形　同　壹錢
一金錢諸物品送通帳　同　壹錢
一金錢諸物品判取帳　同　貳拾錢
一結社約定書　同　壹錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用ス可シ

左ニ掲クル處ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル處ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一營業ニ關スル送狀　印稅　壹錢
一營業ニ關スル受取書　同　壹錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以內一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第二類

左ニ掲クル處ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル處ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

但爲換手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フ可シ

一金錢借用證文
一地所家屋賣買證文
一金高記載アル諸物品預リ證文
一金高記載アル諸物品借用證文
一諸物品賣買證文
一金錢定期預リ證文
一金高記載アル諸般ノ契約證書

金高壹圓以上貳拾圓未滿　印稅　壹錢

○證券印稅規則

◎證券印稅規則

金高貳拾圓以上五拾圓未滿　同　貳錢
金高五拾圓以上百圓未滿　同　四錢
金高百圓以上百五拾圓未滿　同　六錢
金高百五拾圓以上貳百圓未滿　同　八錢
金高貳百圓以上三百圓未滿　同　拾壹錢
金高三百圓以上四百圓未滿　同　拾四錢
金高四百圓以上六百圓未滿　同　貳拾錢
金高六百圓以上八百圓未滿　同　貳拾六錢
金高八百圓以上千圓未滿　同　三拾貳錢
金高千百圓以上千四百圓未滿　同　三拾八錢
金高千四百圓以上千七百圓未滿　同　四拾四錢
金高千七百圓以上貳千圓未滿　同　五拾錢
金高貳千圓以上貳千五百圓未滿　同　六拾錢
金高貳千五百圓以上三千圓未滿　同　七拾錢
金高三千圓以上三千五百圓未滿　同　八拾錢
金高三千五百圓以上四千圓未滿　同　九拾錢
金高四千圓以上　同　壹圓

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ從ヒ下ニ定ムル處ノ印紙ヲ貼用ノ可シ

金高百圓未滿　印稅　四錢
金高百圓以上ハ總テ諸證書稅率ニ據ル可シ

一金錢當座預リ證文

一質物預リ書小札　印稅　壹錢
金高壹圓以上貳拾圓未滿　同　貳錢
金高貳拾圓以上

右諸証書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ從ヒ下ニ定ムル處ノ印紙ヲ貼用ノ可シ

金高百圓未滿　印稅　貳錢
金高百圓以上　同　四錢

一爲換手形　印稅　壹錢
一荷爲換手形　同　貳錢
一約束手形
金高五拾圓未滿
金高五拾圓以上百圓未滿

金高百圓以上貳百圓未滿　同　四錢
金高貳百圓以上五百圓未滿　同　八錢
金高五百圓以上千圓未滿　同　拾五錢
金高千圓以上貳千圓未滿　同　貳拾五錢
金高貳千圓以上　同　五拾錢

第三條　前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラス稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條　印紙ヲ貼用ス可キ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但諸罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條　印紙ハ証書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ証書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ証書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印ス可シ

第六條　印紙及手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　印紙及手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス

第八條　印紙ヲ貼用ス可キ帳簿仕切書送狀ハ主任官之ヲ檢査スルコトアル可シ

第九條　左ニ掲クル所ノ証書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一官廳ヨリ差出ス証書帳簿
一官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル証書
一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預金ニ對スル抵當証書
一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ証書帳簿
一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス証書
一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納人ヘ差出ス請取証書
一罹災救助金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス証書

第十條　第二類ノ帳簿ハ初丁ヘ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載ス可シ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載ス可シ

第十一條　証書帳簿ニ稅率ニ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十二條　印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官檢査ノ節之レニ檢印ヲ受ク可シ

○證券印稅規則

第十三條　前條ノ帳簿餘白アリテ尚之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十四條　第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡キザルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ增加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ增加シタル紙數ヲ記載ス可シ

第十五條　證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十六條　取換セ證書ハ雙方ヲモ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十七條　證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ增減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十八條　此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後証書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルヿヲ得

第十九條　印紙ヲ貼用ス可キ証書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス此証書帳簿ヲ受取タルモノ亦同

第二十條　第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタル者ハ印稅高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其証書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條　此規則ヲ犯シタル証書帳簿ニ請人証人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條　第八條ノ証書帳簿ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第十條及第十三條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上拾圓以下ノ罰錢以下ノ科料ニ處ス

第二十四條　第十二條及第十四條ヲ犯シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條　第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十六條　前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕、再

民事訴訟用印紙法

明治二十三年八月
法律第六十五號

民事訴訟用印紙法

第一條　民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條　財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

訴訟物ノ價額金五	圓マテ	貳拾錢	
同 十	圓マテ	三拾錢	
同 二拾	圓マテ	六拾錢	
同 五拾	圓マテ	壹圓五拾錢	
同 七拾五	圓マテ	貳圓貳拾錢	
同 百	圓マテ	三圓	
同 貳百五拾	圓マテ	六圓五拾錢	
同 五百	圓マテ	拾圓	
同 七百五拾	圓マテ	拾三圓	
同 千	圓マテ	拾五圓	
同 貳千五百	圓マテ	貳拾圓	
同 五千	圓マテ	貳拾五圓	
同 訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ定規ニ從フ	五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ		

第三條　財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用スヘシ

財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト併合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條　本訴ト反訴ト其目的ガ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第五條　控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第六條　左ニ掲グル書類ニハ五拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第一　抗告
第二　故障
第三　証據調ノ申立

第四　假差押及ヒ假處分ノ申請
第五　判決ノ送達アランコトヲ求ムル申立
第六　執行力アル正本ヲ求ムル申立
　但此正本ノ數通ヲ求ムルトキハ其一通毎ニ五拾錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

第七條　和解及ビ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百八十一條第三項及ヒ第三百九十條ノ規定ニ依リ訴ガ區裁判所ニ繫屬スルトキハ第二條第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條　再審ヲ求ムルノ訴狀ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第九條　原狀回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十條　答辨書其他前數條ニ掲ケサル申立及ヒ申請ニハ貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十一條　民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書類ハ其効ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有効ナラシムルヲ得

第十二條　印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布達ニ依ル

第十三條　印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ許サス

第十四條　官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十五條　前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用サス

第十六條　第六條第十條乃至第十二條ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

㊟商事非訟事件印紙法（明治二十三年八月法律第六十六號）

第一條　商法中登記ニ關ル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ從ヒ其差出ス書類ニ民事訴訟用印紙ヲ貼用ス可シ
　但口述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第五條第六條第七條ノ場合ニ於テハ管財人ヨリ差出ス計算書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條　左ニ掲グルモノニ付テハ五拾錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一　抗告又ハ假差押ノ申立

二　債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立

三　支拂猶豫ノ申立

第三條　左ニ掲グルモノニ付テハ貳拾錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一　抗告ニ對スル答辨

二　裁判所ノ命令其他處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特ニ規定セサル非訟事件ニ係ルモノ

第四條　破産手續ニ付テハ破産財團中ノ貸方金額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ但財團管理費用其他破産手續上ノ費用及ヒ財團ノ爲メニ負擔シタル債務並ニ別除ノ辨濟ニ供スル金額ハ貸方金額ヨリ之ヲ扣除スヘキモノトス

財團ノ價額五	圓マテ		四拾錢
同	拾	圓マテ	六拾錢
同	貳拾	圓マテ。	壹圓貳拾錢
同	五拾	圓マテ	三圓
同	七拾五	圓マテ	四圓四拾錢
同	百	圓マテ	六圓
同	貳百五拾	圓マテ	拾三圓
同	五百	圓マテ	貳拾圓
同	七百五拾	圓マテ	貳拾六圓
同	千	圓マテ	三拾圓
同	貳千五百	圓マテ	四拾圓
同	五千	圓マテ	五拾圓
同	五千	圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ四圓ヲ加フ	

第五條　破産手續ニ付テハ財團ノ配當アル毎ニ其配當金額ノ割合ヲ以テ印紙價額ニ相當スル金額ヲ引去リ置キ終局計算ニ至リ配當金總高ノ割合ニ從ヒ相當印紙ヲ貼用スヘシ

第六條　協諧契約ニ依リ手續ヲ止メタルトキハ第四條ニ掲ケタル印紙ノ半額ヲ貼用スヘシ

第七條　破産手續再施ノ場合ニ於テハ破産手續開始ニ於ケル場合ト同一ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第八條　本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第一編第二章第五節ノ規定ヲ準用ス民事訴訟用印紙稅法ハ本法ノ規定ニ抵觸セサル

モノニ限リ之ヲ準用ス

㊙商標條例　明治二十一年十二月　勅令第八十六號

第一條　自己ノ商品ヲ表彰スル爲メ商標ヲ使用セント欲スル者ハ此條例ニ依リ其商標ノ登錄ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

商標ハ特別著明ナル圖形又ハ其結合ヲ以テ要部ト爲スヘシ

第二條　左ニ掲クル商標ハ登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一　風俗ヲ害スヘキモノ

二　商品普通ノ名稱若クハ內外國旗章ノミヲ以テ要部ト爲スモノ

三　他人ノ登錄商標又ハ登錄出願以前ヨリ他人ノ使用スル商標ト同一若クハ類似ニシテ同一商品ニ使用セントスルモノ

第三條　商標ノ登錄ヲ受ケント欲スル者ハ一商標毎ニ明細書及見本ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及見本ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條　商標ノ登錄ヲ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其商標ヲ審査セシメ登錄ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ商標原簿ニ登錄シ其登錄証下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　登錄証ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及見本ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條　商標專用ノ年限ハ二十年ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條　商標ノ專用ハ農商務大臣ノ定ムル商品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル商品ニ限ル者トス

第八條　二人以上同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用セントシテ登錄ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登錄ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登錄セサルモノトス但其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條　商標ノ登錄ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條　登錄ヲ受ケタル商標ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條ニ違ヒ登錄ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登錄ヲ無効トス

第十一條　商標ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十二條　登錄商標主其營業ヲ賣與讓與シ又ハ他人ト其營業ヲ共ニスル場合ニ限リ其商標專用權ヲ賣與讓與シ若クハ共有トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ

登錄ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十三條　登錄ヲ受ケタル商標ト雖モ左ノ場合ニ於テハ其効ヲ失フモノトス

一　登錄商標主相當ノ事故ナクシテ商標登錄ノ日附ヨリ六箇月ヲ經テ其商標ヲ使用セサルトキ

二　登錄商標主相當ノ事故ナクシテ其商標ノ使用ヲ一箇年間中止シタルトキ

三　登錄商標主其商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキ

四　登錄商標主其商標ヲ使用スル商品ノ數量產地品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ

五　登錄商標主磨滅若クハ缺損シタル商標ヲ使用シタルトキ

第十四條　登錄商標主其專用年限滿期ノ後其商標ヲ續用セント欲スル者ハ更ニ其登錄ヲ出願スルコトヲ得

第十五條　登錄商標主其登錄ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條　登錄商標主其明細書若クハ見本ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登錄ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ見本ヲ添ヘ登錄證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其商標ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條　商標ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　商標ノ登錄ヲ出願スルトキ

一商標ニ付商品一類毎ニ　金壹圓

二　登錄商標ノ賣與讓與又ハ共有契約ノ登錄ヲ請求スルトキ

一商標ニ付商品一類毎ニ　金三圓

三　登錄證ノ再下付ヲ出願スルトキ

證書一枚毎ニ　金壹圓

四　登錄証ノ改訂ヲ出願スルトキ

一商標ニ付商品一類毎ニ　金貳圓

五　審判ヲ請求スルトキ

一事件毎ニ　金七圓

第十八條　改正（登錄稅法第十三條援萃）

商標ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規竝續用登錄　商品一類毎ニ金貳拾圓

二　賣與、讓與又ハ共有　商品一類毎ニ金拾圓

第十九條　特許局ハ時々商標公報ヲ印刷シ衆庶ノ縱覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第二十條　登錄商標ニ關スル書類ノ謄本ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第二十一條　登錄商標ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其商標主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條　他人ノ登錄商標ナルコトヲ知リ之ヲ同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐欺ノ所爲ヲ以テ登錄証ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケサル商標ニ登錄ノ文字ヲ記シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條　前條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十五條　第二十三條第一項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十八條　此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

○意匠條例（明治二十一年十二月勅令第八十五號）

第一條　工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀模樣若クハ色彩ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタル者ハ此條例ニ依リ其意匠ノ登錄ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

第二條　左ニ掲クル意匠ハ登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一　風俗ヲ害スヘキモノ

二　登錄出願以前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタルモノ

第三條　意匠ノ登錄ヲ受ケント欲スル者ハ一意匠毎ニ明細書及圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條　意匠ノ登錄ヲ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其意匠ヲ審査セシメ登錄ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務

大臣ノ認可ヲ經テ意匠原簿ニ登錄シ其登錄証下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　登錄証ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條　意匠專用ノ年限ハ三年五年七年及十年ノ四種ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條　意匠專用ハ農商務大臣ノ定ムル物品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル物品ニ限ルモノトス

第八條　二人以上同一又ハ類似意匠ノ登錄ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登錄ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登錄セサルモノトス出願人協議ノ上連名ニテ其登錄ヲ出願スルトキ又ハ其出願ヲ取消ス者アリテ出願人一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條　意匠ノ登錄ヲ受ケタル者又ハ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條　他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ノ登錄出願ノ權利ハ其委託者若クハ雇主ニ屬ス但別ニ契約アル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第十一條　登錄ヲ受ケタル意匠ト雖モ第三條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條第十條ニ違ヒ登錄ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登錄ヲ無効トス

第十二條　意匠ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十三條　意匠專用權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ質入ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十四條　特許局ノ官吏ハ在職中意匠ノ登錄ヲ出願シ又ハ意匠專用權ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ意匠專用權ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第十五條　登錄意匠主其登錄証ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルヿヲ得

第十六條　登錄意匠主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登錄ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ登錄証ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得其意匠ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條　登錄意匠主ハ其意匠ヲ應用シタル物品ニ農商務大臣ノ定メタ

大臣ノ認可ヲ經テ意匠原簿ニ登錄シ其登錄証下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　登錄証ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條　意匠專用ノ年限ハ三年五年七年及十年ノ四種ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條　意匠專用ハ農商務大臣ノ定ムル物品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル物品ニ限ルモノトス

第八條　二人以上同一又ハ類似意匠ノ登錄ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登錄ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登錄セサルモノトス出願人協議ノ上連名ニテ其登錄ヲ出願スルトキ又ハ其出願ヲ取消ス者アリテ出願人一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條　意匠ノ登錄ヲ受ケタル者又ハ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條　他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ノ登錄出願ノ權利ハ其委託者若クハ雇主ニ屬ス但別ニ契約アル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第十一條　登錄ヲ受ケタル意匠ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條第十條ニ違ヒ登錄ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登錄ヲ無効トス

第十二條　意匠ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十三條　意匠專用權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十四條　特許局ノ官吏ハ在職中意匠ノ登錄ヲ出願シ又ハ意匠專用權ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ意匠專用權ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第十五條　登錄意匠主其登錄証ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルヿヲ得

第十六條　登錄意匠主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登錄ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ登錄証ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得其意匠ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條　登錄意匠主ハ其意匠ヲ應用シタル物品ニ農商務大臣ノ定メタ

ル登錄標記ヲ爲スヘシ

第十八條　意匠ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　意匠ノ登錄ヲ出願スルトキ　金五拾錢

一　意匠ニ付物品一類毎ニ

二　登錄意匠ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登錄ヲ請求スルトキ　金三圓

一　意匠ニ付物品一類毎ニ

三　登錄証ノ再下付ヲ出願スルトキ　金壹圓

証書一枚毎ニ

四　登錄証ノ改訂ヲ出願スルトキ　金貳圓

一　意匠ニ付物品一類毎ニ

五　審判ヲ請求スルトキ　金七圓

一　事件毎ニ

第十九條　改正（登錄稅法第十二條拔萃）

意匠ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄　物品一類毎ニ金參圓

三年ノ專用　物品一類毎ニ金五圓

五年ノ專用　物品一類毎ニ金七圓

七年ノ專用　物品一類毎ニ金拾圓

十年ノ專用　物品一類毎ニ金貳圓

二　賣與、讓與又ハ共有　物品一類毎ニ金壹圓

三　書入契約

第二十條　登錄意匠ニ關スル書類ノ謄本若クハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第二十一條　登錄意匠ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其意匠主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條　他人ノ登錄意匠ナルコトヲ知リ之ヲ同一物品ニ應用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

登錄意匠主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

詐僞ノ所爲ヲ以テ登錄證ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケサル意匠ヲ應用

シタル物品ニ登錄標記若クハ類似ノ標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰第一項ニ同シ

第二十四條　前條第一項第二項ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ登錄意匠主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徵シテ之ヲ給付ス

第二十五條　第二十三條第一項第二項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條　登錄意匠主第十七條ノ登錄標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十九條　此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

㊙特許條例（明治二十一年十二月 勅令第八十四號）

第一條　新規有益ナル工術、機械、製造品、及合成物ノ新規有益ナル改良ヲ發明シタル者ハ此條例ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

特許トハ發明者ニ他人ヲシテ其承諾ヲ經スシテ前項ノ發明ヲ製作使用又ハ販賣セシメサル特權ヲ許スコトヲ謂フ

第二條　左ニ揭クル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一　飲食物嗜好物

二　醫藥並其調合法

三　特許出願以前公ニ用ヒラレタルモノ但試驗ノ爲メ公ニ知ラレタルコト二年以內ノモノハ此限ニ在ラス

第三條　特許ヲ受ケント欲スル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條　特許ヲ出願スル者ナルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其發明ヲ審査セシメ特許ヲ與フヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ特許原簿ニ登錄シ特許証下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　特許証ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條　特許ノ年限ハ五年十年及十五年ノ三種ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ

起算ス

第七條　公益ノ爲メ普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若クハ秘密ヲ要スルモノト認メタル發明ニハ農商務大臣ハ特許ニ制限ヲ附シ若クハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若クハ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ハ相當ト認ムル報酬ヲ發明者又ハ特許証主ニ與フルモノトス

第八條　他人ノ特許發明ヲ改良シ其改良發明ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其特許証主ニ協議シ原發明ニ改良發明ヲ合セテ使用スルノ承諾ヲ經

第三條ニ依リ出願スヘシ

特許証主其承諾ヲ拒ミタルトキハ其旨ヲ願書ニ記載シテ出願スルコトヲ得此場合ニ於テハ農商務大臣ハ原發明ヲ改良發明ニ合セテ使用スルノ特許ヲ改良發明者ニ與フルコトヲ得

改良發明者前項ノ特許ヲ受ケタルトキハ原特許証主ニ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ヲ與フ義務アルモノトス

第九條　特許ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條　特許ヲ受ケタル發明ト雖モ左ニ掲クルモノハ其特許ヲ無効トス

一　新規又ハ有益ナラサリシコトヲ發見セラレタルモノ

二　第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ

三　發明ヲ實施スルニ必要ナル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セシコトヲ發見セラレタルモノ

四　發明ヲ實施スルニ必要ナラサル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セシコトヲ發見セラレタルモノ

第十一條　特許局審査官特許出願ノ發明ヲ審査シ特許ヲ與フヘカラストシタルトキハ特許局長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第十二條　前條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ヲ請求スルモノアルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ審査官其不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ其査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ

第十三條　特許局審査官特許出願ノ發明他人ノ特許出願中ノ發明ト抵觸シ又ハ他人特許發明ト抵觸ストシタルトキハ特許局長ハ其抵觸ノ箇所ヲ關係人ニ通知シ其發明ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ

關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長之ヲ特許局審査官ニ付シテ

發明ノ先後ヲ審査セシメ其査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第十四條　前條ノ場合ニ於テ既ニ與ヘタル特許証ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルトキハ其特許年限ハ前特許証登錄ノ日ヨリ起算シ其年限ニ超ユルコトヲ得ス

第十五條　第十二條ノ再査定及第十三條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得第十六條特許証主其權利ノ他特許証主ノ權利ト撞着スルコトヲ發明シタルトキハ其權利ヲ確定スル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十七條　特許ヲ受ケタル發明第十條ニ該ルコトヲ發見シタル者ハ其特許ヲ無効トスル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十八條　審判ヲ請求スル者アルトキハ特許局ニ於テ局長ハ審判長トナリ二人以上ノ審判官ト共ニ之ヲ審判スヘシ

第十九條　特許局ノ審判ニ對シテハ不服ヲ申立又ハ裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第二十條　第十三條ノ審査及特許局ノ審判ニ關シ關係人ニ於テ証據ヲ要スルトキハ其請求ニ依リ特許局長ハ其集取ヲ治安裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條　第十六條第十七條ニ係ル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第二十二條　特許ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第二十三條　特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ出願シ又ハ特許ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ特許ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第二十四條　特許ハ左ノ場合ニ於テ其効ヲ失フモノトス

一　特許証主相當ノ事故ナクシテ特許証ノ日附ヨリ三年ヲ經テ其發明ノ實施ヲ公行セサルトキ

二　特許証主相當ノ事故ナクシテ其發明ノ實施公行ヲ三年間中止シタルトキ

三　特許証主其特許品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シ又ハ自己ノ權利ヲ侵スヘキ物品ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者アルコトヲ知リテ之ヲ默許シタルトキ

第二十五條　特許証主特許証ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再

下付ヲ出願スルコトヲ得

第二十六條　特許証主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ特許ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ特許証ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其發明ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條　特許証主其明細書中ニ自己ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ自己ノ發明トシテ記載セシコトヲ發見シタルトキハ其削除ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條　第二十六條第二十七條ニ依リ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ其願書ヲ特許局審査官ニ付シテ審査セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ特許局審査官ノ査定ニ服セサル者ハ第十二條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條　特許証主ハ其物品ニ農商務大臣ノ定メタル特許標記ヲ爲スヘシ

第三十條　特許ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　特許ヲ出願スルトキ　一發明毎ニ　金五圓

二　特許ノ賣與讓與其有又ハ書入契約　一發明毎ニ　金參圓

三　特許証ノ再下付ヲ出願スルトキ　証書一枚毎ニ　金壹圓

四　特許証ノ改訂又ハ明細書中ノ削除　一發明毎ニ　金五圓　一事件毎ニ　金七圓

五　審判ヲ請求スルトキ

第三十一條　改正（登錄稅法第十一條拔萃）

特許ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄

五年ノ特許　金貳拾圓

十年ノ特許　金三拾圓

拾五年ノ特許　金四拾圓

二　賣與、讓與又ハ共有　每一件金拾圓

三　書入契約　每一件金五圓

第三十二條　特許局ハ時々特許發明ノ明細書及特許公報ヲ印刷シ衆庶ノ縱覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第三十三條　特許ニ關スル書類ノ謄本又ハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許

局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第三十四條　特許ヲ侵シタル者ハ其特許証主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第三十五條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第三十六條　他人ノ特許品ヲ偽造シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ偽造品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者又ハ他人ノ特許工術ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許証主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其輸入シタル物品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第三十七條　前條ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ特許証主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徵シテ之ヲ給付ス

第三十八條　詐欺ノ所爲ヲ以テ特許証ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標札若クハ之ニ類似シタル標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　第三十六條ノ犯罪ハ被害者ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ使用若クハ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第四十條　特許証主其特許品ニ第二十九條ノ特許標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條　被告人特許ノ無効タルコトヲ以テ答辨セント欲スルトキハ其旨裁判所ニ申告シ其日ヨリ三十日以内ニ特許局ニ第十七條ノ審判ヲ請求スヘシ此場合ニ於テ裁判所ハ特許局ノ審判終結マテ其裁判ヲ中止スヘシ

第四十二條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十三條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四十四條　此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

第四十五條　明治十八年四月第七號布告專賣特許條例ハ此條例施行ノ日ヨリ廢止ス但專賣特許條例ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ効アルモノトス

專賣特許出願ノ此條例施行ノ日ニ於テ處分ヲ終ラサルモノハ此條例ニ依リ處分ス

決鬪條例

明治二十三年十二月廿八日　法律第三十四號

第一條　決鬪ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條　決鬪ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年已下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條　決鬪ニ決リテ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シ處斷ス

第四條　決鬪ノ立會ヲ爲ス事ヲ約シタル者ハ証人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス情ヲ知テ決鬪ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第五條　決鬪ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹譏シタル者ハ刑法ニ照シ誹譏ノ罪ヲ以テ論ス

第六條　前數條ニ記載シタル犯罪ハ刑法ニ照シ其重キ者ハ重キニ從フテ處斷ス

訴願法

明治二十三年十月　法律第百五號

第一條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得

一　租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
二　租稅滯納處分ニ關スル事件
三　營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
四　水利及土木ニ關スル事件
五　土地ノ官民有區分ニ關スル事件
六　地方警察ニ關スル事件
其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

第二條　訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲナシタル行政廳ヲ經由スヘシ

國ノ行政ニ付此法律ニ依リ郡參事會又ハ市參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテ訴願セントスル者ハ其處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參事會ヲ經由シテ府縣參事會ニ之ヲ提起スヘシ

第三條　各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其省ニ之ヲ提起スヘ

シ

第四條　裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ其事件ニ付更ニ訴願スルコトヲ得ス

第五條　訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

訴願書ノ侮辱誹毀ニ渉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條　訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齢ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

訴願書ニハ證據書類ヲ添ヘ並下級行政廳ノ裁決ヲ經タル者ハ其裁決書ヲ添フヘシ

第七條　多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分職業住所年齢ヲ記載シ署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第八條　行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第九條　法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス

其訴願書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第十條　訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限内ニ之ヲ算入セス

第十一條　第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ十日以内ニ辯明書及必要文書ヲ添ヘ上級行政

廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ三日以内ニ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第三項ノ場合ニ於テ訴願書ヲ發送スルトキ亦前二項ノ例ニ依ルヘシ

第十二條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行ヲ停止セス但行政廳ハ其職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得

第十三條　訴願ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

第十四條　訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ訴願ヲ却下スルトキ亦同シ

第十五條　訴願ノ裁決書ハ其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ訴願人ニ交付スヘシ訴願書ヲ却下スルトキ亦同シ

第十六條　上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ下級行政廳ヲ覊束ス

第十七條　訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノハ各其規程ニ依ル

附則

第十八條　明治十五年(十二月)第五十八號布告請願規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條　此法律施行ノ前請願規則ニ依リ受理シタル請願ハ仍其規則ニ依リ之ヲ處分ス

請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴願スルヲ得ヘキ場合ニ於テ更ニ訴願セントスルトキハ此法律ニ從ヒ其上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

第二十條　第八條ノ訴願期限ハ此法律施行ノ前行政處分ヲ受ケ又ハ請願

規則ニ依リ指令ヲ受ケタル事件ニシテ其處分又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿五年ヲ經過セサルモノニ對シテハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條　行政廳ニ呈出スル請願ハ此法律ニ依ルノ限ニ在ラス

◎集會及政社法　明治二十六年四月十三日　法律第十四號

第一條　此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ講談論議スル爲公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ政社ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ目的トシテ團體ヲ組織スルモノヲ謂フ

第二條　政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ

政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會二十四時間以前ニ會場所在地ノ管轄警察署ニ屆出ヘシ

政談集會ノ屆出ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

一　集會ノ場所
二　集會ノ年月日時
三　發起人ノ氏名住所
四　講談論議者ノ氏名

前項ノ屆出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

屆書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス若ハ三時間以上中斷スルトキハ屆出ノ效ヲ失フモノトス

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選擧準備ノ爲ニ選擧權ヲ行フヘキ者及被選擧權ヲ有スル者ニ限リ會同スル所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ第二項ノ屆出ヲ要セス

第三條　屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セムトスルトキハ發起人ヨリ二十四時間以前ニ會同スヘキ場所、年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ屆出テ認可ヲ受クヘシ但シ祭葬、講社、學生生徒ノ體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限リニ在ラス

屋外ニ於テ政談集會ヲ開キ又ハ政治ニ關ル意思ヲ表スルノ目的ヲ以テ公衆ヲ會同スルハ堅固ナル屏障ヲ設ケ自由ノ交通ヲ遮斷シタル地域內ニ限ルモノトス

警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何等ノ場合ニ拘ラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第四條　帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以內ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ第三條第一項ノ但書ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第五條　左ニ掲クル者ハ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

一　日本臣民ニ非サル者

二　公權剝奪及停止中ノ者

第六條　左ニ掲クル者ハ政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス

一　現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人

二　警察官

三　官立公立私立學校ノ教員學生生徒

四　女子

五　未成年者

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選擧準備ノ爲ニ開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ選擧權ヲ行フヘキ者及被選擧權ヲ有スル者ニ限リ本條ノ制限ニ依ルヲ要セス

第七條　政談集會ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ講談論議者タラシムルコトヲ得ス

第八條　警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ臨監セシムルコトヲ得

發起人ハ臨監警察官ニ其ノ求ムル所ノ席ヲ供シ且集會ニ關ル事項ニ付尋問アルトキハ之ニ答フヘシ

政談集會ニアラサルモ其ノ狀況安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル集會ニハ第一項ノ臨監ヲ爲スコトヲ得

第九條　集會及運動ニハ戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戎器ヲ携帶スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノモノヲ救護シ又ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ教唆スルノ談論ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　會場ニ於テ故ラニ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ渉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十二條　集會ニ於テ講談論議安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ停止スルコトヲ得

第十三條　警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

一　集會ノ成立此ノ法律ニ背キタルトキ

二　警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ席ヲ供セズ又ハ其ノ尋問

ニ答ヘサルトキ

三　會衆騒擾ニ渉リ警察官之ヲ制止スルモ鎮靜セサルトキ

四　第六條第九條ノ違犯者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ命スルモ其ノ命ニ從ハサルトキ

五　集會ノ狀況安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ

第十四條　第二條ノ屆出ヲ爲サスシテ政談集會ヲ開キタルトキハ發起人ヲ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條ノ屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發起人罰前項ニ同シ

第十五條　第三條ノ認可ヲ受ケスシテ集會若ハ運動ヲ爲シタルトキハ發起人ヲ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　第四條ヲ犯シタルトキハ發起人ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　第五條第六條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條ヲ犯シタル發起人又ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起人ハ罰前項ニ同シ

第十八條　第九條ヲ犯シタル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者又ハ退出ヲ命セラレタル後仍退出セサル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　政社ニハ社員名簿ヲ備ヘ及役員ヲ置クヘシ

政社ハ組成後三日以内ニ其ノ役員ヨリ社名、社則、事務所及役員ノ氏名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ屆出ヘシ其ノ屆出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ屆出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

役員ハ其ノ政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキハ之ニ答フヘシ

第二十二條　政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

但シ會場及講談論議者ヲ豫定シテ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初期ノ開會二十四時間以前ニ屆出ルトキハ爾後ノ例會ハ屆出ヲ要セス其ノ屆出ノ事項ニ變更アリタルトキハ仍第二條ノ手續ニ依ルヘシ

第二十三條　左ニ掲クル者ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス

一　現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人

二　警察官

三　官立公立私立學校ノ教員學生生徒

四　女子

五　未成年者

六　公權剝奪及停止中ノ者

第二十四條　政社ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス

第二十五條　政社ハ標章及旗幟ヲ用ヰルコトヲ得ス

第二十六條　政社ハ他ノ政社ト連結スルコトヲ得ス

第二十七條　政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シ其テノ發言表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設クルコトヲ得ス

第二十八條　政社ニシテ支社ヲ設クルトキハ總テ政社ノ規定ニ依ル

第二十九條　結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ內務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得

第三十條　第二十條ニ違フトキハ其ノ役員ヲ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス第二十一條ノ屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ尋問ヲ受ケテ答フルニ實ヲ以テセサル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十一條　第二十三條ニ背キ入社シタル者又入社セシメタル役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十二條　第二十五條ニ背キ標章旗幟ヲ用ヰタル者及其ノ政社ノ役員ハ罰前項ニ同シ

第三十三條　第二十六條ヲ犯シタルトキハ其ノ役員ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　第二十九條ノ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社ノ實アル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條　此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十六條　此ノ法律ニ關ル公訴ノ時效ハ六箇月ヲ經過スルニ由テ成就ス

第二十三條　左ニ掲クル者ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス

一　現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人

二　警察官

三　官立公立私立學校ノ教員學生生徒

四　女子

五　未成年者

六　公權剝奪及停止中ノ者

第二十四條　政社ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス

第二十五條　政社ハ標章及旗幟ヲ用ヰルコトヲ得ス

第二十六條　政社ハ他ノ政社ト連結スルコトヲ得ス

第二十七條　政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シ其テノ發言表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設クルコトヲ得ス

第二十八條　政社ニシテ支社ヲ設クルトキハ總テ政社ノ規定ニ依ル

第二十九條　結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ內務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得

第三十條　第三十條ニ違フトキハ其ノ役員ヲ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス第二十一條ノ屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ尋問ヲ受ケテ答フルニ實ヲ以テセサル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十一條　第二十三條ニ背キ入社シタル者又入社セシメタル役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十二條　第二十五條ニ背キ標章旗幟ヲ用ヰタル者及其ノ政社ノ役員ハ罰前項ニ同シ

第三十三條　第二十六條ヲ犯シタルトキハ其ノ役員ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　第二十九條ノ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社ノ實アル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條　此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十六條　此ノ法律ニ關ル公訴ノ時效ハ六箇月ヲ經過スルニ由テ成就ス

第三十七條　法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此ノ法律ニ依ルノ限ニ在ラス

出版法

明治二十六年四月十三日　法律第十五號

第一條　凡ソ機械舍密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條　新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖畫ノ出版ハ總テ此ノ法律ニ依ルヘシ但シ專ラ學術技藝統計廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條　文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ內務省ニ屆出ヘシ

第四條　官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ發行前ニ製本二部ヲ內務省ニ送付スヘシ

第五條　出版屆ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但シ非賣品ハ著作者又ハ發行者ノミニテ屆出ルコトヲ得

版權ノ保護ナキ文書圖畫ヲ出版スルトキ若ハ著作者又ハ其ノ相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ學校會社協會等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ屆出ヘシ

第六條　文書圖畫ノ發行者ハ文書圖畫ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但シ著作者又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

第七條　文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第八條　文書圖畫ノ印刷者ハ其ノ氏名住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ

印刷所若數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス

前二項ノ印刷所ニシテ若營業上慣行ノ名稱アルモノハ其ノ名稱ヲモ記載スヘシ

第九條　書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類及寫眞ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルヽ者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

第十條　文書圖畫ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ雜誌類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ經テ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト看做スヘシ

第十一條　一タヒ出版屆ヲ爲シタル文書圖畫ノ再版ハ出版屆ヲ要セスト雖若改正增減シ又ハ註解、附錄、繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ

第十二條　演說若ハ講義ノ筆記ハ演說者若ハ講義者ヲ以テ著作者トスヘシ筆記者ニ於テ演說者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作者ト看做スヘシ此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルヽトキハ演說者若ハ講義者筆記者ト同ク其ノ罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ノ筆記ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ノ外ハ講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但シ本項ニ違フ者ハ版權法ニ據リ其ノ責ニ任セシム

第十三條　二種以上ノ著作若ハ演說講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者ヲ著作者ト看做スヘシ

前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ

第十四條　翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十五條　學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ出版屆ニ署名シタル代表者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十六條　罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ關レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第十七條　重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十八條　外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條　安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ內務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十條　外國ニ於テ印刷シタル文書圖畫ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ內務大臣ハ其ノ文書圖畫ノ內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條　軍事ノ機密ニ關スル文書圖畫ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ズ

第二十二條　第三條ノ屆出ヲ爲サスシテ文書圖畫ヲ出版シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　發行者自己ノ氏名住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖畫ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條　印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖畫ニ記載セス若ハ之ヲ記載スルモ實ヲ以テサル者ハ罰前條ニ同シ

住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及名稱ヲ記載セサル者亦前項ニ同シ

第二十六條　政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セムトスル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者發行者印刷者ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十七條　風俗ヲ壞亂スル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ル、文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未タ發賣頒布セサル文書圖畫ハ之ヲ沒收ス

第二十九條　第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ撿事ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得

第三十條　前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其ノ差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十一條　文書圖畫ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ渉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若之ヲ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十三條　此ノ法律ニ關ル公訴ノ時效ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十四條　此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ渉ルトキハ內務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ差止ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非サレハ更ニ此法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス

第三十五條　文書圖畫ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此ノ法律ニ依ル

◎版權法　明治二十六年四月十三日法律第十六號

第一條　凡ソ文書圖畫ヲ出版シテ其ノ利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ文書圖畫ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ

第二條　出版法ニ依リ文書圖畫ヲ出版スル者及出版法又ハ新聞紙法ニ依リ雜誌ヲ發行スル者ハ總テ此ノ法律ニ依リ其ノ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第三條　改正（登錄稅法第十條拔萃）

版權ノ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ム可シ

一　普通ノ文書圖畫　一種每ニ金五圓

二　冊號ヲ追ヒ順次出版スル文書圖畫

一冊每ニ金貳圓五拾錢

三　雜誌ノ類　一冊每ニ金五拾錢

四　興行權ヲ併有スル脚本　一種每ニ金五拾圓

五　興行權ヲ併有スル樂譜　一種每ニ金貳拾圓

六　寫眞　一版每ニ金五圓

第四條　官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版シ版權ノ登錄ヲ得ムト欲スルトキハ其ノ由ヲ內務省ニ通知スヘシ

第五條　版權登錄ノ文書圖畫ニハ其ノ保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其ノ記載セサルモノハ登錄ノ效ヲ失フモノトス

第六條　內務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備置キ願出アル每ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

登錄ヲ經タル文書圖畫ハ內務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ揭示スヘシ

第七條　版權ハ著作者ニ屬シ著作者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス講義若ハ演說ヲ筆記シタルモノヽ版權亦同シ但シ公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ筆記シテ出版スルモノハ版權侵害ト認ムルノ限ニ在ラス

翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス

官廳、學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ノ版權ハ其ノ官廳、學校、會社、協會等ニ屬スルモノトス

二種以上ノ著作若ハ講義演說ノ筆記ヲ編纂シタル文書圖畫ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス但シ其原著作及原筆記ニ別ニ版權所有者アルトキハ其ノ所有主ノ承諾ヲ經タル後ニ非サレハ其ノ部分ニ付本項ヲ適用セス

第八條　版權ハ制限ヲ附シ若ハ附セスシテ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得

第九條　版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其ノ再度下付ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得但シ手數料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ

版權登錄證書ニ誤謬アリタルトキハ其ノ理由ヲ記シ其ノ更正ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得但シ其ノ誤謬官ニ在ル場合ノ外ハ手數料トシテ五拾錢ヲ納ムヘシ

第十條　版權保護ノ年限ハ著作者ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マテヲ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍三十五年ニ足ラサル時ハ版權登錄ノ月ヨリ三十五年トス

數人ノ合著ニ係ルモノヽ版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計算ス

官廳又ハ學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫竝ニ著作者死亡ノ後ニ出版スル文書圖畫ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス

第十一條　冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖畫ノ版權年限ハ每號其ノ出版ノ月ヨリ起算ス但シ其都度第三條ノ手續ヲナスヘシ

雜誌ノ類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十二條　版權ノ保護ハ其ノ文書圖畫ヲ改正增減シ又ハ註解、附錄、繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲變更スルコトナ

ガルヘシ

版權登錄ヲ得タル文書圖畫ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ文書圖畫ノ爲ニ寫シタルモノハ其ノ文書圖畫ト共ニ版權ノ保護ヲ受クルモノトス

第十三條　版權年限ヲ經過スルモ版權所有者ノ願出ニ依リ內務大臣ニ於テ必要ト見做ストキハ仍十年間版權保護ノ期限ヲ延スコトアルヘシ

第十四條　文書圖畫ノ版權中所有者死亡シ他人ニ於テ其ノ版權相續者ナキコトヲ確信シ之ヲ出版セムト欲スルトキハ其ノ由ヲ官報及東京ノ四紙以上ノ重ナル新聞紙竝ニ其ノ所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月內ニ版權相續者ノ出テサルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作者又ハ相續者ヲ知ルヘカラサル著作ニシテ未タ出版セサルモノ亦前項ノ手續ニ依リ出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條　新聞紙ニ於テ二號以上ニ渉リ記載シタル論說、記事又ハ小說及二號以上ニ渉ラスト雖特ニ一欄ヲ設ケ冒頭ニ禁轉載ト記シタルモノハ其ノ編輯者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ刊行ノ月ヨリ二年內ニ之ヲ他ノ新聞紙若ハ雜誌ニ轉載シ又ハ之ヲ編纂シテ出版スルコトヲ得ス其ノ二年ヲ經ルト雖已ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ス

第十六條　版權所有ノ文書圖畫ヲ僞版シタル者ハ其ノ版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ其ノ寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

第十七條　僞版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其ノ發賣頒布ヲ差止ムルコトヲ得但シ審理ノ末僞版ニ非スト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其ノ差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第十八條　僞版ニ關ル損害賠償ノ責ハ僞版者ノ相續者ニ及フモノトス

第十九條　版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ版權所有ノ文書圖畫ヲ翻譯シ增減シ註解、附錄、繪圖等ヲ加ヘ若ハ其ノ未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及第十五條ニ違フ者ハ僞版ヲ以テ論ス他人ノ講義又ハ公開ナラサル席ニ於テ爲シタル他人ノ演說ヲ筆記シ其ノ許諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ同シ

第二十條　翻譯書ノ版權ハ其ノ翻譯者ニ屬スト雖其ノ原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ僞版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但シ其ノ既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　世人ヲ欺瞞スル爲故ヲニ版權所有ノ文書圖畫ノ題號ヲ冒シ或ハ摸擬シ又ハ氏名、社號、屋號等ノ類似シタルモノヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十二條　著作者又ハ其ノ相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル文書圖畫ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖畫ヲ翻刻スルモノ亦僞版ヲ以テ論ス所有者ノ承諾ヲ經スシテ書畫ヲ出版スルモ亦同シ

第二十三條　文書圖畫ヲ寫眞ト爲シ因テ其ノ版權ヲ犯スモノハ僞版ヲ以テ論ス

第二十四條　內國ニテ版權所有ノ文書圖畫ヲ外國ニ於テ僞版シタルモノヲ輸入販賣スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十五條　僞版ノ訴アリテ其ノ僞版シタルヤ否ヲ決シ難キトキハ其ノ訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ヒ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

第二十六條　僞版ニ關ル損害賠償ノ時效ハ其ノ原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第二十七條　僞版者及情ヲ知ル印刷者販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若ハ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

僞版ニ係ル刻版及印本ハ其ノ何人ノ手ニ在ルヲ問ハス之ヲ沒收シ其ノ既ニ販賣シタルモノハ其ノ賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條　版權ヲ所有セサル文書圖畫ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ表題ヲ改メ又ハ著作者ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ著作者又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十九條　第三條ノ手續ヲ爲サスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖畫ヲ出版スル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十一條　此ノ法律ニ關ル公訴ノ時效ハ二年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十二條　從前ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル者ノ版權年限ハ從前ノ條例ニ依リ計算スルモノトス

◎脚本樂譜條例

明治二十年十二月勅令第七十八號

脚本樂譜條例

第一條　演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ依リ之ヲ出版シ及版權

○脚本樂譜條例

ヲ所有スルコトヲ得

第二條　演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權（即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權）ヲ併セ有スルコトヲ得但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ

第三條　演劇脚本樂譜ノ興行權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ之ヲ賣渡シ讓渡スヿヲ得

第四條　演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スルモノ亦同シ

第五條　興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿免ノ期トス

明治廿年十二月二十八日勅令第七十九號

寫眞版權條例

第一條　凡ソ光線ト藥品トノ作用ニヨリ人物器物景色其他象ノ眞形ヲ寫シタルモノヲ寫眞ト云ヒ寫眞ヲ發行シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ寫眞版權ト云フ

第二條　寫眞版權ハ寫眞師ニ屬シ寫眞師死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但他人ノ囑托ニ係ルモノヽ寫眞版權ハ囑托者ニ屬シ囑托者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

囑托ニ係ル寫眞ノ種版ニシテ現存スルモノハ版權所有者ニ於テ之ヲ寫眞師ヨリ受取ルコトヲ得ルモノトス

第三條　寫眞版權ノ保護ヲ受ント欲スルモノハ發行前寫眞一枚ニ付見本二葉及金五圓ヲ添ヘ（登錄稅法第十條參看）版權登錄ヲ內務省ニ願出ヘシ但人物ノ寫眞ハ登錄ヲ待スシテ其保護ヲ受ル者トス

第四條　版權登錄ノ寫眞ニハ其保護年限間ハ版權所有者ノ氏名住所版權登錄ノ年月ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第五條　內務省ニ於テハ寫眞版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アリタルトキハ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

寫眞版權登錄證書ノ取扱ハ總テ文書圖畫ノ版權登錄證書ニ準スルモノトス

第六條　寫眞版權保護ノ年限ハ登錄ノ月ヨリ十年トス

第七條　寫眞版權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣渡シ讓渡スヿヲ得

第八條　版權ノ保護ヲ受ル寫眞ハ之ヲ覆寫シ若クハ機械又ハ舍密ノ作用

○寫眞版權條例

○寫眞版權條例

ニヨリ多數ヲ增製シ得ヘキ方法ヲ以テ寫眞術ト類似ノ摸寫ヲ爲シ及寫眞師ニ於テ本人又ハ其相續者ノ承諾ヲ受スシテ款托ニ係ル寫眞ヲ增製スルコトヲ得ス

第九條　第三條ノ手續ヲナサスシテ版權登錄ヲ詐稱シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　第八條ニ違フ者ハ版權條例ニ據リ僞版ヲ以テ論シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス及損害賠償ノ責ニ任セシム

第十一條　此條例ニ關スル公訴ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認メラレタル寫眞又ハ摸寫物作爲ノ時ヨリ起算シ其發賣セルモノハ最後ニ發賣シタル時ヨリ起算ス

第十二條　此條例ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

㊂郵便條例（明治十五年十二月布告第五十九號）

第一章　郵便物

第一條　凡郵便物別テ五種ト爲ス（廿八年三月法律第十八號ヲ以テ改正）

一　書狀

二　郵便葉書及往復葉書（十七年第三十三號布告ヲ以テ（及）以下五字ヲ追加ス）

三　毎月一回以上發行スル定時印刷物及其附錄

四　書籍帳簿各種ノ印刷物寫眞書畫繪圖罫紙營業品ノ見本及雛形（二十二年八月七日法律第二十二號ヲ以テ本條中追加）

五　農產物種子（廿八年三月法律第十八號ヲ以テ改正）

第二條　何品ヲ問ハズ此條例ニ抵觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得

第三條　封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ

第四條　第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一種郵便物トナスヘシ

第五條　第二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

一　截斷又ハ破却シタルモノ

一　稅額印面ニ文字ヲ書シタルモノ

一　稅額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ（配達又ハ返戻ノ爲ニスルモノヲ除ク）

一　其他ノ品ヲ貼付シタルモノ

一　表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ

第六條　第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ證シテ遞信省ノ認可ヲ受ケ遞信省認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ

其附錄ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナサスシテ本紙ニ添付シ且本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ

第七條　第三種第四種第五種郵便物ハ封緘セサルモノトス（同上）

第八條　第三種第四種第五種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一種郵便物トナスヘシ（同上）

第九條　營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルヘシ

第十條　營業者ニアラサルモノヽ間ニ往復スル見本及雛形ハ第一種郵便物トナスヘシ

第十一條　異種ノ郵便物ヲ合裝スルトキハ總テ其種類中高額稅ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四條ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

第十二條　郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス

第十三條　第三種第四種第五種郵便物（營業品ノ見本及雛形ヲ除ク）ハ一個三百目ニ超過スヘカラス（同上）

第十四條　營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量百匁ニ超過スヘカラス（二十二年八月七日法律第二十一號ヲ以テ本條中追加）

第十五條　郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺貳寸幅八寸厚五寸ニ超過スヘカラス

第十六條　左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス

一毒藥劇藥爆發燃燒シ易キ物品（十九年二月十二日第四號布告ヲ以テ第一項ヲ改メテ本項及次ノ一項ト爲ス）

一流動物流動腐敗シ易キ物孵化スヘキ物動物植物鋒刃陶器品等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品但十分ノ豫防ヲ爲シ郵便電信局若クハ郵便受取所ノ承認ヲ受ケタル後郵便ニ差出スモノハ此限ニアラス

一風俗ヲ害スヘキ文書圖畫寫眞及物品

一金銀寶玉

一貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章　郵便稅

第十七條　郵便稅ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム

第一種郵便物　重量二匁毎ニ（二匁未滿ハ亦同シ）　貳錢

第二種郵便物（葉書一葉往復葉書一葉）（十七年第三十三號布告ニテ葉書一錢トアル葉書一葉一錢往復葉書一葉二錢ト改ム）　壹錢　貳錢

第三種郵便物（一號一箇重量十六匁毎ニ（十六匁未滿亦同ジ）二號又ハ二箇以上一束重量十六匁毎ニ十六匁未滿亦同ジ）　五厘　壹錢

第四種郵便物　重量三十匁毎ニ三十匁未滿亦同ジ（二十二年八月七日法律第二十一號ヲ以テ改正）　貳錢

第五種郵便物　重量三十匁毎ニ三十匁未滿亦同ジ　一錢

第十八條　郵便稅ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス郵便封皮葉書往復葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但內信局長ト約定アルモノハ此限ニ在ス（十七年第三十三號布告ヲ以テ（葉書）ノ下（往復葉書）ノ四字ヲ加フ）

第十九條　納稅ニ用ヒタル郵便切手竝封皮葉書往復葉書帶紙ノ稅額印面ハ郵便電信局郵便局ニ於テ消印スヘシ（同上）

第二十條　郵便稅ニ過納アルモ已ニ其稅額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第二十一條　未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

受取人其郵便物ヲ受取タルトキハ其納稅ヲ拒ムヘカラス

受取人其郵便物ヲ受取ラスシテ差出人ニ還付スルトキハ其差出人ヨリ其額ノ三倍ヲ徵收スヘシ

第二十二條　未納稅又ハ不足稅ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ差立前ニ係ル未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキ亦同シ

第二十三條　第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納稅又ハ不足稅ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十四條　人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ未納稅又ハ不足稅ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十五條　未納稅又ハ不足稅ヲ徵收スルトキハ郵便電信局郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ其証トナスヘシ

第三章　郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙

第二十六條　郵便切手封皮郵物葉書往復葉書郵便帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ（同上）

第二十七條　郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙ハ郵便稅納ノ証トナスモノ

トス（同上）

第二十八條　郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ因テ稅額ニ不足ヲ生スルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第二十九條　郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ稅額ニ製造費ヲ加ヘタル額ヲ以テ遞信大臣之ヲ定ムヘシ

第三十條　郵便帶紙ハ第三種郵便物一號一箇ヲ以テ達スルモノニ用ユヘシ但重量十六匁以下ノモノニ限ルヘシ

第三十一條　郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請求ニ依リ遞信管理局ニテ賣下クヘシ

第三十二條　郵便切手封皮葉書往復葉書ヲ賣ルモノハ一等郵便電信局長一等郵便局長ノ免許ヲ受ケ郵便切手賣下所ノ標板ヲ掲クヘシ（同上）

第三十三條　郵便切手封皮葉書往復葉書ハ郵便電信局郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス（同上）

第三十四條　郵便電信局郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書往復葉書ノ印面稅額ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス（同上）

第三十五條　郵便封皮葉書往復葉書帶紙ノ稅額印面ヲ切取リ郵便切手ニ代用スルモ其効用ヲ有セス（同上）

欠

MISSING

十分ノ一ヲ手數料トシテ徵收スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年ヲ過ルモ尙ホ其爲替證書ノ書換ヲ請求セサルトキハ其爲替金ヲ沒入スヘシ

第百四十八條　爲替證書ヲ失ヒタルトキ又ハ汚斑毀損シ判明ナラサルトキハ差出人ニ於テ證人ヲ立テ爲替貯金局ニ其事由ヲ證明シ更ニ再度ノ證書ヲ請求スヘシ

第百四十九條　爲替金ヲ返戻シ又ハ證書ヲ書換ヘ或ハ再度ノ證書ヲ交付スルハ其原證書ニ對スル報知書ヲ取戻シタル後ニ限ルヘシ

第百五十條　爲替證書ノ書換又ハ再度ノ證書ヲ請求スルトキハ更ニ相當ノ爲替料ヲ納ムヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

爲替證書ノ書換及再度ノ證書ヲ同時ニ請求スルモ兩樣ノ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

第百五十一條　再度ノ爲替證書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル爲替證書ヲ見出シタルトキハ之ヲ爲替貯金局ニ納付スヘシ

第百五十二條　爲替資金ノ都合ニ因リ爲替金ノ渡方順延スルコトアルヘシ

十分ノ一ヲ手數料トシテ徵收スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年ヲ過ルモ尚ホ其爲替證書ノ書換ヲ請求セサルトキハ其爲替金ヲ沒入スヘシ

第百四十八條　爲替證書ヲ失ヒタルトキ又ハ汚斑毀損シ判明ナラサルトキハ差出人ニ於テ證人ヲ立テ爲替貯金局ニ其事由ヲ證明シ更ニ再度ノ證書ヲ請求スヘシ

第百四十九條　爲替金ヲ返戻シ又ハ證書ヲ書換ヘ或ハ再度ノ證書ヲ交付スルハ其原證書ニ對スル報知書ヲ取戻シタル後ニ限ルヘシ

第百五十條　爲替證書ノ書換又ハ再度ノ證書ヲ請求スルトキハ更ニ相當ノ爲替料ヲ納ムヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

爲替證書ノ書換及再度ノ證書ヲ同時ニ請求スルモ兩樣ノ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

第百五十一條　再度ノ爲替證書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル爲替證書ヲ見出シタルトキハ之ヲ爲替貯金局ニ納付スヘシ

第百五十二條　爲替資金ノ都合ニ因リ爲替金ノ渡方順延スルコトアルヘシ

第百五十三條　爲替證書又ハ報知書ニ失誤アルカ或ハ其報知書未達ノトキハ爲替金ノ拂渡ヲ延引スヘシ

第百五十四條　爲替金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第百五十五條　郵便爲替ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ遞信省ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第百五十六條　此章ノ規則ニ從ヒ爲替金ヲ渡シタル後ハ其渡方ニ就キ異議ヲ唱フルモ遞信省ハ其責ニ任セス

第十三章（第百五十七條ヨリ第二百二條迄ハ二十三年八月十二日法律第六十三號郵便貯金條例公布ニ依リ廢ス）

第十四章　外國郵便

第二百三條　凡外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス

一　書狀

二　郵便葉書及往復葉書

三　書籍各種ノ印刷物寫眞畫圖

四　詞訟上及商用上ノ書類

五　商品ノ見本

第二百四條　何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ牴觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

第二百五條　第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百六條　第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百七條　第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ

第二百八條　第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量二「キログラム」（凡五百三十二匁四分零）ヲ超過スヘカラス

第二百九條　第五項郵便物ノ大サハ長二十「サンチメートル」（凡曲尺六寸六分六厘）幅十「サンチメートル」（凡三寸三分三厘）厚五「サンチメートル」（凡一寸六分六厘）又其重量ハ二百五十「グラム」（凡六十六匁五分五厘）ニ超過スヘカラス

第二百十條　第三項第四項第五項郵便物ヲ合裝スルトキハ其重量ハ第二百八條ノ制限ニ超過スヘカラス但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第二百九條ニ據ルヘシ

第二百十一條　第二項郵便物ハ萬國郵便聯合葉書往復葉書ヲ用ユヘシ

第二百十二條　第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第二百十三條　第五項郵便物ハ賣價ヲ付セサルモノニ限ルヘシ

第二百十四條　左ニ記載スルモノハ外國ニ差立ル郵便物トナスヘカラス

一貨幣又ハ高價ノ物品

一關稅ヲ拂フヘキ物品

一流動物流動腐敗シ易キ物孵化スヘキ物動物植物鋒又器硝子器陶器等

他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ品（十九年二月第四號布告ヲ以テ第三項ヲ改メテ本項及次ノ一項ト爲ス）

一第十六條第一項第三項及第四項ニ記載シタル物品

第二百十五條　郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少クモ其郵便稅ノ一部分ヲ前納シタルモノニ限ルヘシ

第二百十六條　郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便稅完納ニ限ルヘシ但到達地ニ於テ課スヘキ郵便稅ハ此限ニアラス

第二百十七條　第二百八條第二百九條第二百十條第二百十三條第二百十五條第二百十六條ニ背戻スル郵便物ハ差出人ニ還付シ未納稅又ハ不足稅ハ第十七條ノ割合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二百十八條　書留郵便物ハ郵便稅書留手數料トモ前納ニ限ルヘシ

第二百十九條　郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取證書返送ヲ望ムヲ得之ヲ望ムトキハ郵便稅書留手數料ノ外增手數料ヲ前納スヘシ

第二百二十條　郵便稅書留手數料及增手數料ハ日本國郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第二百二十一條　郵便稅書留手數料增手數料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名及郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ遞信大臣公告スヘシ

第二百二十二條　書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便物ヲ內國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモノヽ外之ヲ紛失シタル國ノ主管廳ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人ニ五十「フランク」（一「フランク」ハ凡金貨二十錢）若クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ償金ヲ拂フヘシ

書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ內國ニ到達スル書留郵便物ヲ內國遞送中紛失タルトキ亦同シ

第二百二十三條　軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡內國ヲ發シ外國ニ航スル船舶ノ所有主若クハ其代理者ハ遞信省遞信管理局又ハ郵便電信局郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一第一項郵便物ハ一個二錢ニ超過セサル額

一第二項以下ノ郵便物ハ一個壹錢ニ超過セサル額

第二百二十四條　第二十六條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條ノ規則ハ此章ノ郵便葉書往復葉書ニ亦適用スヘシ

第二百二十五條　第十二條第十九條第二十條第二十一條第一項第三項第二十二條第二十五條第四十四條第四十八條第五十一條第五十九條第六十一條第六十三條第六十四條第六十六條第二百二十二條ノ償金ヲ除ク　第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第百條及第十一章ノ規則ハ內國ヨリ外國ニ差立ル郵便物ニ亦適用スヘシ

第二百二十六條　第二十一條第一項第二項第二十五條第四十四條第四十九條第五十一條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第六十三條第六十六條第二百二十二條ノ償金ヲ除ク　第七十三條第九十九條第百條第百一條第百四條第一項及第八章ノ規則ハ外國ヨリ內國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

第十五章　罰則

第二百二十七條　第十六條第三十三條第三十四條第六十九條第七十條第二百十四條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス（刑法第百六十三條參看）

第二百二十八條　第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百二十九條　第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條　第六十七條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

濫送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十一條　第六十八條第二百二十三條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條　解怠故意ヲ問ハス第七十一條第七十二條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條　郵便封皮葉書往復葉書帶紙ヲ僞造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條　已レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其

情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲナシタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタル時ハ官吏傭人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十五條　郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲メニスルヲ問ハス郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十六條　疎虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢以上壹圓九　五錢以下ノ科料ニ處ス

書留郵便ニ係ルトキハ貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條　有稅ヲ以テ免稅トシ其他詐僞ヲ以テ郵便稅ヲ免レタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞送配達シ或ハ自己ノ受ケタル郵便物ノ未納稅又ハ不足稅ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十八條　不良ノ事ヲ行ハンカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス行フ處不良ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス

第二百三十九條　遞信省ノ認可ヲ得ズシテ郵便物ニ遞信省認可ノ文字ヲ用ヒルモノハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便物運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ用ヒタルモノ亦同シ

第二百四十條　未納稅又ハ不足稅及ヒ別配達料艀船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ五日內ニ納メサルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ヲ奉スルモノ徵收スヘキ郵便稅別配達料艀船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ徵收セサルトキ亦同シ

第二百四十一條　郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未タ消印ヲナサヽル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第二百四十二條　郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替金及爲替料ヲ領收

セスシテ爲替證書ヲ振出シ又ハ爲替證書ヲ受取ラスシテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス（本條第二項ハ二十三年八月法律第六十三號郵便貯金條例公布ニ付廢止ス）

第二百四十四條　郵便物ニ押用セル印面ヲ變換シタルモノハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十五條　郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルトキハ五十錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十六條　郵便函郵便行囊其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢シタルモノハ一月以上六年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十七條　渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遲緩シタルトキハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十八條　第二百三十七條ニ記載シタル罰ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百四十九條　第二百三十條第二百三十三條第二百三十七條第二百四十三條第二百四十二條第二百四十一條第二百四十ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二百五十條　本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ據テ處斷ス

◎第三種郵便物認可規則（明治二十五年二月　遞信省令第四號）

第一條　第三種郵便物ノ認可ヲ受ケントスル定時印刷物ノ發行人ハ全部印刷シタル見本一部ヲ添ヘ願書ニ左記ノ事項ヲ記載スヘシ

一　題號
二　記載事項ノ性質種類
三　發行ノ定日
四　發行所
五　發行人（官廳會社學校協會等ハ其代表人）ノ居所氏名

本條ノ規定ニ違由セサル願書ハ之ヲ受理セス

第二條　前條ノ發行人ハ其印刷物ニ付文書ヲ以テ左記ノ諸件ヲ証明スヘシ

一　毎月一回以上逐號定期發行スルコト
二　記載事項ノ性質終期ヲ豫定ス可ラサルコト
三　書籍ノ性質ヲ有セサルコト

四　發行ノ目的政事時事學術工藝其他公共ノ性質アル事項ヲ報道論議スルニ在ルコト及廣ク之ヲ公衆ニ發賣スルコト

本條ノ証明ヲ爲サヽル印刷物ハ第三種郵便物トシテ之ヲ認可セス

第三條　認可ヲ受ケタル定期印刷物ニハ其題號、番號、認可及發行ノ年月日、遞信省認可ノ文字ヲ見易キ場所ニ印刷スヘシ

第四條　認可ヲ受ケタル定時印刷物ニ左記ノ異動ヲ生スルトキハ發行人（代表人）ヨリ七日以内ニ屆出ツヘシ

一　題號、紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類、發行所又ハ發行定日ヲ變更シタルトキ但紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類ヲ變更シタルトキハ見本一部ヲ差出ス可シ又發行所ヲ變更シタルトキハ舊發行所ヲ記載スヘシ

二　發行人轉居又ハ變更ノトキ

但變更ノトキハ舊發行人ノ氏名ヲモ記載スヘシ

三　廢刊休刊又ハ發行禁止若クハ停止ノトキ（二十五年十月遞信省令第十五號ヲ以テ改正）

第五條　認可ヲ受ケタル印刷ニシテ前條屆出ノ有無ニ拘ハラス第二條ニ記載シタル條件ノ一ヲ闕クニ至リタルト認ムルトキハ其認可ヲ取消スヘシ認可ノ取消ハ其達書ヲ發行人ノ住所ニ送達シタル翌日ヨリ効力ヲ生スルモノトス認可ノ取消ヲ受ケタル印刷物ハ認可ヲ得サルモノト見做ス（同上ヲ以テ改正）

第六條　第四條ノ屆出ヲ期限内ニ爲サヽル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第七條　本令發布ノ日以前ニ第三種郵便物トシテ認可ヲ受ケタル定時印刷物發行人（代表人）ハ本令第一條第二條ニ依リ明治二十五年三月三十一日迄ニ更ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ從前ノ認可ハ該日限ヲ以テ其効ヲ失フ

◎小包郵物法（明治二十五年六月法律第二號）

第一條　何等ノ物品ヲ問ハス左ニ記載スルモノヲ除ク外ハ小包郵便物トシテ之ヲ郵便ニ差出スコトヲ得

第一　郵便條例第十六條第一項乃至第三項ノ物品但第二項ノ物品ハ郵便局ノ承認ヲ受ケテ郵便ニ差出スコトヲ得

第二　信書又ハ信書ノ性質ヲ有スルモノ若クハ音信文記入ノ物品

第二條　小包郵便物ハ郵便料ノ外ニ保險料ヲ納付シテ之ヲ價額登記ノ小包郵便物ト爲スコトヲ得但シ其ノ價額ハ實價ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條　小包郵便物ヲ其ノ受取人ニ交付セス又ハ差出人ニ還付セサル前ニ生シタル損害ニ付テハ政府其ノ賠償ノ責ニ任ス

第四條　小包郵便料、保險料、賠償金額竝ニ小包郵便物ノ容積重量及價額登記ノ制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　左ノ場合ニ係ル損害ハ政府其ノ賠償ノ責ニ任セス

第一　天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因ルトキ

第二　物品自己ノ性質ニ因ルトキ

第三　差出人ノ過誤怠慢ニ因ルトキ

第四　本邦郵便條例及其ノ施行ニ關スル命令ヲ遵守セスシテ郵便ニ差出シタルトキ

第六條　小包郵便物配達ノ際其ノ外部ニ破損ノ痕迹ナク且重量ニ變異ナキトキハ政府損害賠償ノ責ニ任セス受取人若クハ差出人ニ於テ異議ナク該郵便物ヲ受領シタルトキ亦同シ

第七條　小包郵便物損害ニ對スル賠償ノ請求ハ其ノ郵便物ノ差出人ヨリ遞信大臣ノ指定スル郵便局ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ郵便料ノ返付ヲ請求スルコトヲ得但其ノ請求期限ハ郵便物差出ノ日ヨリ三箇月トス此期限ヲ經過スルトキハ政府其ノ責ヲ免ル

第八條　賠償又ハ郵便料ノ返付ニ關シ郵便局ノ通知ヲ受ケ之ニ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條　政府賠償ヲ爲シタルトキハ其ノ郵便物若クハ損害ニ付賠償受領者ノ有スル所有權若クハ第三者ニ對スル請求權ヲ當然承繼ス但シ亡失シタル郵便物ヲ發見シタル場合ニ於テ差出人ハ受領シタル賠償金及郵便料ヲ返納シテ其ノ物品ノ還付ヲ請求スルコトヲ得其ノ請求期限ハ亡失郵便物發見ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月トス

第十條　郵便事務ニ關シ郵便官署ノ間相互遞送スル小包郵便物ハ郵便稅ヲ免除ス

第十一條　小包郵便物ノ轉送又ハ還付ニ對スル郵便料ヲ納メサル者及之ヲ徵收セサル者ハ郵便條例第二百四十條ノ例ニ據リ之ヲ處斷シ小包送票ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ル者ハ同條例第二百四十一條ノ例ニ據リ之ヲ處斷ス

第十二條　第一條第二ニ掲クルモノヲ小包郵便物トシテ差出シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　本法ノ施行細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

第十四條　本法及其ノ施行ニ關スル命令ニ明文ナキ事項ハ郵便條例ヲ準用ス

附則

第十五條　此ノ法律ハ明治二十五年十月一日ヨリ施行ス

○代金引換小包郵便規則（明治廿九年九月廿一日遞信省令第十九號）

第一條　代金引換小包郵便物ノ取扱ハ小包郵便並ニ郵便爲替ヲ取扱フ郵便局ニ限ルヘシ

第二條　代金引換小包郵便ハ小包郵便物ノ到着局ニ於テ其差出人ノ指定シタル代金ト引換ニ小包郵便物ヲ其受取人ニ交付シ小包郵便物ノ差立局ニ於テ郵便爲替書ヲ以テ之ヲ其差出人ニ拂渡スモノトス

第三條　代金引換トシテ差出スヘキ小包郵便物ハ留置小包郵便物ニ限ル又其代金ハ金三拾圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第四條　代金引換手數料ハ小包郵便物一箇ニ付金五錢トシ差出人ヨリ郵便切手ヲ以テ前納スヘシ

第五條　代金引換ノ小包郵便物ヲ其受取人ニ交付スルコト能ハスシテ差出人ニ還付スル場合ト雖モ代金引換手數料ハ之ヲ還付セス

第六條　代金引換小包郵便物ノ差出人ハ其代金額ヲ小包送票ノ摘要欄內ニ明記シ之ニ捺印スヘシ

第七條　代金引換小包郵便物ノ差出人ハ差立局ヨリ其小包郵便物ニ對スル代金ヲ明記セル受取證ヲ受クヘシ

第八條　代金引換小包郵便物ノ差出人ニ於テ代金引換ノ請求ヲ取消サントスルトキハ其受取證ヲ證トシ差出局ニ申出ツヘシ但引替ユヘキ金額ノ變更ヲ請求スルコトヲ得ス

代金引換方ノ請求ヲ取消シタル場合ト雖代金引換ノ手數料ハ之ヲ還付セス

第九條　小包郵便差立後電報ヲ以テ代金引換ノ請求ヲ取消サントスルモノハ郵便切手ヲ以テ其電報料ニ相當スル金額ヲ前納スヘシ

第十條　差立局ニ於テ代金引換取消ノ請求ニ應シタル場合ト雖モ到着局ニ於テ既ニ小包郵便物ヲ受取人ニ交付シ若クハ還付ノ取扱ヲナシタル後ハ其請求ノ效ナキモノトス

第十一條　代金引換小包郵便物ノ到着局ハ其差出人ノ宿所氏名及代金並ニ其爲替料ヲ受取人ニ通知スヘシ

受取人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ小包郵便物留置期限內ニ該通知書ニ相當記入ヲナシ調印ノ上其爲替料ニ相當スル郵便切手ヲ貼付シ代金

ト共ニ到着局ニ差出スヘシ

到着局前項小包郵便物ノ代金及通知書ヲ受収シタルトキハ其代金ヲ爲替振出金トナシ之ニ對スル受領證書ヲ調製シ小包郵便物ト共ニ受取人ニ交付スヘシ

第十二條　代金引換小包郵便物ノ受取人ニ於テ代金引換ニ小包郵便物ヲ受取リタル後チハ其代金ノ返戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條　到着局ハ第十一條ノ手續ヲ了リタル後チ爲替證書調製ニ必要ナル事項ヲ差立局ニ通知スヘシ

第十四條　差立局ハ前條ノ通知ニ據リ爲替証書ヲ調製シ代金引換小包郵便物ノ差出人ニ代金ノ到着ヲ通知スヘシ

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其通知ノ日ヨリ十五日以内ニ其通知書及第六條ノ受取証ヲ証トシ差立局ニ於テ該通知書ト引換ニ爲替証書ヲ受取ルヘシ

第十五條　代金引換小包郵便物ノ差出人前條之期限内ニ爲替証書ノ受取方ヲ請求セサルトキハ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第十六條　代金引換小包郵便物ノ受取人又ハ差出人ニ於テ其通知書若クハ受取証ヲ紛失汚損シタルトキハ速ニ事實ヲ証明シ更ニ其交付ヲ受クヘシ

差出人若クハ受取人ニ於テ前納ノ手續ヲ盡サヽル爲小包郵便物若クハ爲替証書ヲ他人ニ交付スルモ遞信省其責ニ任セス

第十七條　本則ニ明文ナキ事項ハ小包郵便及郵便爲替ノ規定ニ據ル

●電信條例　明治十八年五月布告第八号

第一章　電報

第一條　凡電報別テ三種ト爲ス

一　官報
二　局報
三　私報

第二條　官報局報私報各別テ七類ト爲ス

一　通常電報
二　至急電報
三　追尾電報
四　同文電報
五　照校電報
六　受信電報

七　返信料前納電報

第三條　電報ヲ傳送スルノ順序ハ官報ヲ先トシ局報之ニ次キ私報又之ニ次クモノトス

第四條　遞信大臣ニ於テ法律規則ニ違背シ又ハ治安ヲ妨害シ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル私報ハ其傳送ヲ止ムヘシ

第五條　政府ハ時機ニ依リ線路又ハ地方又ハ語辭ヲ限リ私報ヲ停止スルコトアルヘシ

第二章　電報書法

第六條　凡電報ヲ書載スルニハ普通辭又ハ秘辭隱語ヲ問ハス和文ハ片假名及數字ヲ用ヒ歐文ハ羅馬字及亞剌比亞數字ヲ用フヘシ

第七條　郵便電信局長ニ於テ私報ニ用フル秘辭隱語ノ解釋又ハ其符合原本ヲ要スルトキハ之ヲ差出スヘシ

第三章　電報

第八條　凡電報料ハ內國ヲ通シテ同一ト爲ス但一市內及壹岐對馬ニ發著スルモノハ此ノ限ニアラス

第九條　電報料及手數料ノ金額ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　電報料及手數料ハ電信切手ヲ以テ納ムルモノトス其切手ハ賴信紙ニ貼付スヘシ但返信電報料ノ前納及尋問電報料ノ假納ハ貼付スルノ限ニアラス

第十一條　郵便電信局電信局並電信切手賣下所ノ設ケアラサル地ニ於テハ郵便ニ付シテ電報ヲ發出スルトキハ郵便切手ヲ以テ電信切手ニ代用スルコトヲ得其郵便切手ハ賴信紙ニ貼付セサルモノトス

第十二條　電報料及手數料ニ用ヒタル電信切手ハ郵便電信局電信局ニ於テ消印スヘシ

第十三條　電報料及手數料ハ過納アルモ已ニ電信切手ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス未タ傳送セサル電報ヲ返還アルトキ已ニ消印シタルモノ亦同シ

第十四條　第四條ニ據リ私報ノ傳送ヲ止ムルトキハ其既ニ納メタル料金ヲ還付セス

第十五條　電報取扱ノ過失ニ因テ甚シク遲延シ若クハ到達セサルモノハ其料金ヲ還付ス照校電報ニシテ傳送ノ際誤謬ヲ生シテ其用辨ヲ闕キタルコト判然タルモノ亦同シ

第十六條　料金還付ノ請求ハ發信ノ日附ヨリ六十日以內ニ遞信省ニ申出ヘシ此期限ヲ過クルトキハ一切之ヲ受理セス

第十七條　電報料及手數料ニ不足アルトキハ郵便電信局電信局ニ於テ其電報ヲ傳送スルモ其不足ノ料金二倍ヲ發信人ヨリ追納セシムヘシ

第十八條　發信人又ハ受信人ヨリ納ムヘキ料金ヲ七日以内ニ徵收シ難キトキハ發信人ノ納メサルモノハ受信人ヨリ受信人ノ納メサルモノハ發信人ヨリ徵收スヘシ

第四章　電信切手

第十九條　電信切手ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ

第二十條　電信切手ハ電報料及手數料納濟ノ証トナスモノトス

第二十一條　電信切手ヲ賣ル者ハ遞信管理局長ノ免許ヲ受ケ電信切手賣下所ノ標札ヲ掲クヘシ

第二十二條　電信切手ハ郵便電信局並電信切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス

第二十三條　電信切手ハ其額面ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス

第二十四條　返信電報料ノ前納及尋問電報料ノ假納ニ充ツル電信切手並電信切手ニ代用スル郵便切手ヲ賴信紙ニ貼付シタルモノハ各其効用ヲ失フ

第二十五條　電信切手ノ汚斑毀損又ハ不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ但其未タ使用セサルモノニ限リ二人以上ノ証人ヲ立テ其原由ヲ証明シタルトキハ遞信管理局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ

第二十六條　遞信管理局又ハ一等郵便電信局一等電信局ニ於テハ四枚以上連續シタル電信切手ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第五章　電報發送

第二十七條　電報ノ傳送ハ郵便電信局電信局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第二十八條　郵便電信局電信局ノ廢置並開局時間ハ遞信大臣之ヲ告示スヘシ

第二十九條　電報ヲ依托スル時間ハ開局時間ニ限ルヘシ但至急官報ハ此限ニアラス

第三十條　發信人ノ請求アルニ非サレハ電報ノ受取証書ヲ交付セス之ヲ請求スルトキハ其手數料ヲ納ムヘシ

第三十一條　官報ハ官廳又ハ官吏ノ印ヲ押捺スヘキモノトス但官報タルノ確証アルトキハ此限ニアラス

第三十二條　官報ノ原信ヲ証據トシテ差出ストキハ其返信ヲ官報トシテ發送スルコトヲ得

第三十三條　郵便電信局電信局ニ於テ私報ノ發信人タルノ証據ヲ要スルトキハ其發信人ハ賴信紙ノ端末ニ署名捺印スヘシ

第三十四條　電報ハ其宛名ノ家又ハ本人ニ之ヲ配達スヘシ但受取ルヘキ人名ノ指名アルモノハ此限ニアラス

第三十五條　電報ヲ受取タル者ハ電報受取紙ニ時刻ヲ記入シ記名ノ下ニ捺印シ直ニ之ヲ配達人ニ交付スヘシ

第三十六條　宛名ノ家又ハ本人ニ屬セサル電報ノ配達ヲ受取タル者ハ其由附箋シ直ニ之ヲ着信局ニ返付スヘシ

其電報ヲ誤テ開封シタル者ハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書スヘシ

第三十七條　郵便電信局電信局ヨリ一里ヲ超ヘサル地ニ配達スル電報ハ手數料ヲ要セス但別便配達島嶼配達艀船配達ハ此限ニアラス

第三十八條　郵便電信局電信局ヨリ一里ヲ超ヘタル地ニ配達スル電報ニシテ發信人ヨリ其配達方ヲ指定セサルモノハ先拂郵便ヲ以テ遞送スヘシ

第三十九條　郵便ニテ遞送スル電報ハ其郵便稅ヲ納ムヘシ

別紙又ハ艀船ヲ以テ配達スル電報ハ手數料ヲ納メ島嶼ニ配達スル電報ハ實費ヲ納ムヘシ

第四十條　受信人ニ配達シ能ハサリシ電報ハ着信局ニ留置キ本人或ハ其委任ヲ受タル代人ヨリ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ若シ着信ノ日ヨリ六十日以内ニ請求スル者アラサルトキハ之ヲ沒書トナスヘシ

第四十一條　未タ傳送セサル電報ハ其發信人タルノ証據ヲ以テ返還ヲ請求スルトキハ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第四十二條　電報ノ傳送ヨリ生シタル損失又ハ異議アルモ遞信省ハ一切其責ニ任セス

第六章　尋問改正

第四十三條　受信人電報ノ字句ニ疑惑アリテ尋問ヲ要スルトキハ其電報ヲ受取リタル時ヨリ二十四時以内ニ之ヲ請求スルコトヲ得但其料金ヲ假納スヘシ

郵便電信局電信局ニ於テハ其請求ニ應シ電報ヲ校正シ通信上ニ誤謬ナキトキハ假納ノ料金ヲ收入シ若シ誤謬アルトキハ之ヲ還付スヘシ

第四十四條　發信人電報ノ字句ニ改正ヲ要スルトキハ其電報ヲ依托シタル時ヨリ七十二時以内之ヲ請求スルコトヲ得但發信人タルノ証據ヲ差出スヘシ

第七章　閲覽正寫

第四十五條　發信人又ハ受信人ハ電報發着ノ日ヨリ三十日以内ニ本人又ハ其代人タルノ証據ヲ以テ發着局ニアル原信ノ閲覧ヲ請求スルコトヲ得又其原信ニ相違ナキノ証印アル正寫ヲ請求スルコトヲ得其期限ヲ過キタルトキハ更ニ六十日以内ニ之ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得此期限ヲ過クルトキハ一切之ヲ許サス原信ノ正寫ヲ請求スルトキハ其手數料ヲ納ムヘシ

第八章　電機私設

第四十六條　凡電氣ノ機器ヲ以テ通信傳話及號報ヲナサントスル者ハ遞信大臣ニ願出ヘシ

第四十七條　私設ノ電線ハ官設ノ電線アヲサルニ於テ一人又ハ両人ノ用ニ供スルモノニ限リ許可スルモノトス但傳話又ハ鐵道ノ用ニ供スルモノハ官設ノ電線アル地ニ於テモ許可スルコトアルヘシ

第四十八條　電線私設ノ許可ヲ得タル者ハ遞信省ニ於テ定メタル規約ニ從フヘシ

第四十九條　私設ノ電線ハ最寄電信分局ニ連續設置スヘシ但傳話又ハ鐵道ノ用ニ供スルモノハ此限ニアラス

第五十條　私設ノ電線ハ他人ノ電報ヲ傳送スルコトヲ許サス

第九章　海外電報

第五十一條　海外電報ハ同盟諸國ノ會議ヲ以テ定ムル所ノ萬國條約書ニ據リテ取扱フヘシ

第十章　罰則

第五十二條　第七條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條　第二十二條第二十三條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條　第三十五條第三十六條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條　第四十六條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其機器ヲ沒收ス

第五十六條　第四十八條第四十九條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ情狀ニ依リ電線私設ヲ禁止ス

第五十七條　第五十條ヲ犯シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加シ其機器ヲ沒收ス

第五十八條　電線ヲ切斷セスト雖モ電氣ヲ吸引シ易キ物ヲ纏繞シテ不通ニ致シ若クハ其効力ヲ妨害シタルモノハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ

第四十五條　發信人又ハ受信人ハ電報發着ノ日ヨリ三十日以内ニ本人又ハ其代人タルノ証據ヲ以テ發着局ニアル原信ノ閲覧ヲ請求スルコトヲ得又其原信ニ相違ナキノ証印アル正寫ヲ請求スルコトヲ得其期限ヲ過キタルトキハ更ニ六十日以内ニ之ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得此期限ヲ過クルトキハ一切之ヲ許サス原信ノ正寫ヲ請求スルトキハ其手數料ヲ納ムヘシ

第八章　電機私設

第四十六條　凡電氣ノ機器ヲ以テ通信傳話及號報ヲナサントスル者ハ遞信大臣ニ願出ヘシ

第四十七條　私設ノ電線ハ官設ノ電線アラサルニ於テ一人又ハ両人ノ用ニ供スルモノニ限リ許可スルモノトス但傳話又ハ鐵道ノ用ニ供スルモノハ官設ノ電線アル地ニ於テモ許可スルコトアルヘシ

第四十八條　電線私設ノ許可ヲ得タル者ハ遞信省ニ於テ定メタル規約ニ從フヘシ

第四十九條　私設ノ電線ハ最寄電信分局ニ連續設置スヘシ但傳話又ハ鐵道ノ用ニ供スルモノハ此限ニアラス

第五十條　私設ノ電線ハ他人ノ電報ヲ傳送スルコトヲ許サス

第九章　海外電報

第五十一條　海外電報ハ同盟諸國ノ會議ヲ以テ定ムル所ノ萬國條約書ニ據リテ取扱フヘシ

第十章　罰則

第五十二條　第七條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條　第二十二條第二十三條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條　第三十五條第三十六條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條　第四十六條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其機器ヲ沒收ス

第五十六條　第四十八條第四十九條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ情狀ニ依リ電線私設ヲ禁止ス

第五十七條　第五十條ヲ犯シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加シ其機器ヲ沒收ス

第五十八條　電線ヲ切斷セスト雖モ電氣ヲ吸引シ易キ物ヲ纏繞シテ不通ニ致シ若クハ其効力ヲ妨害シタルモノハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ

處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十九條　疎虞懈怠ニ因リ電信ノ器械柱木條線ヲ損壞切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シ或ハ其効力ヲ妨害シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

其水底電信線ニ係ルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條　電信ノ柱木條線ニ紙鳶ヲ懸ケ若クハ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲チ或ハ柱木及測量標木ニ獸畜ヲ繫キ若クハ貼紙シ戲書シ又ハ柱木ノ記號及測量標木ヲ毀棄汚穢シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十一條　政府ノ指定シタル水底電信線路內ニ於テ艦船ヲ繫泊シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ土砂ヲ掘鑿シ又ハ電信線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其號標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス政府ノ指定シタル電信船ノ號標距離內ニ於テ前項ノ所爲ヲ行ヒ又ハ施行シタル者亦同シ

第六十二條　僞計又ハ威力ヲ以テ電報ノ傳送配達及架線其他ノ工事ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條　已レニ屬セサル電報ヲ開封シ若シハ私用シ或ハ毀棄汚穢抑留隱匿シ若クハ受取人ニ非サル者ニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ收受シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條　電信切手ヲ僞造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十五條　已ニ貼用シタル電信切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十六條　電信事務ヲ奉スル者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第六十七條　遞信大臣ノ許可ヲ得スシテ通信室ニ入リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ入レタル者ハ一等ヲ加フ

第六十八條　電信事務ヲ奉スル者私報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス但法律規則ニ從ヒ開披說明スルハ此限ニアラス

官報及局報ノ旨意ヲ漏泄シタル者ハ一等ヲ加フ

第六十九條　電信事務ヲ奉スル者賴信紙ニ貼用シタル切手ヲ剝取タルト

キハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未タ消印ヲナサヽル切手ヲ剝取タル者ハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第七十條　電信事務ヲ奉スル者故ナクシテ通信ノ依托ヲ拒ミタルトキハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十一條　疎虞懈怠ニ因リ電報ヲ遺失シ又ハ傳送配達ヲ延滯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第七十二條　配達人謝儀若クハ不當ノ賃錢ヲ要求シタルトキハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第七十三條　第五十八條第六十二條第六十四條第六十五條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂サル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七十四條　第六十四條第六十九條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

◎狩獵法（明治廿八年三月廿日法律第二十號）

第一章　獵具獵法

第一條　此ノ法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器各種ノ網、放鷹、黐繩、又ハ撲ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條　爆發物、据銃若ハ危險ナル罠及陷穽ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ揭ケサルモノニ就テハ地方長官（東京府下ハ警視總監以下倣之）ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條　日出前、日沒後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶、流車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　左ニ揭クル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

一　御獵場
二　禁獵制札アル場所
三　公道
四　公園
五　社寺境內
六　墓地
七　欄、柵、圍障又ハ作物植付アル他人ノ所有地及免許ヲ受ケタル他

人ノ共同狩獵地但シ所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　地方長官ハ土地所有者ノ出願又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ禁獵制札ヲ建ツルコトヲ得

第二章　狩獵免許

第六條　狩獵ヲ爲サムト欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受クヘシ但シ欄、柵、圍障アル所有地內ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第七條　從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域內ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ出願ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第八條　免狀ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第九條　免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

一等（所得稅十五圓以上若ハ地租二百圓以上納ムル者）　甲種金五圓　乙種金十圓

二等（所得稅三圓以上若ハ地租四十圓以上納ムル者又ハ一等ニ相當スル者ノ家族）　甲種金一圓五十錢　乙種金三圓

三等　一等二等以外ノ者　甲種金五十錢　乙種金一圓

第十條　甲種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

有効期限ハ十月十五日ヨリ滿一箇年トシ乙種免狀ノ地方長官ハ土地ノ狀況ニ因リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ前項ノ期限ヲ三十日以內伸縮スルコトヲ得

第十一條　免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス但シ助手ヲ要スル獵法ニアリテハ免狀ヲ有セサル者ヲ同伴スルコトヲ得

第十二條　獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帶スヘシ

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ檢査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條　免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ屆出ヘシ

免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ手數料金貳拾五錢ヲ納ムヘシ

第十四條　十六歳未滿ノ者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條　免狀ハ其ノ効力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以內ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十六條　遊歩規程ノ制限アル外國人ニシテ狩獵免狀ヲ受クル者ハ甲種金五圓乙種金拾圓ノ免許稅ヲ納メ其ノ規程內ニ限リ狩獵スルコトヲ得若其ノ規程外ニ於テ狩獵シタルトキハ該免狀ハ爾後無効ノモノトス

第三章　鳥獸保護

第十七條　保護ヲ必要トスル鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス但シ捕獲ノ禁止又ハ停止以前ニ於テ捕獲シタル鳥獸ハ其ノ禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週間以內ニ於テ販賣スルハ此ノ限ニ在ラス飼養ニ係ル保護鳥獸ハ前項期日後ト雖農商務大臣定ムル所ノ規則ニ依リ販賣スルコトヲ得

捕獲ヲ禁止シ又ハ停止スヘキ保護鳥獸ノ種類及期限ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十八條　捕獲ヲ禁スル鳥類ノ卵又ハ雛ヲ取リ若ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス

第十九條　捕獲ヲ禁スル鳥獸ト雖學術研究其ノ他特別ノ理由ニ因リ捕獲ヲ要スルトキハ地方長官ハ特ニ其ノ許可ヲ與フルコトヲ得

有害鳥獸ヲ驅除スル爲必要ト認ムル場合ニ於テモ亦同シ

第四章　罰則

第二十條　第六條第一項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ第十四條ニ違背シテ乙種免狀ヲ受ケタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ第九條ニ違背シテ免狀ヲ受ケタル者ハ七圓以上七拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　第二條第一項、第三條、第四條第一乃至第六ニ違背シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ効力ヲ失フモノトス

第二十二條　第四條第七、第十二條第三項、第十七條第一項、第十八條ニ違背シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第四條第七ニ付テハ土地所有者又ハ管理人ノ告訴ヲ待テ處斷ス

第二十三條　第十二條第一項、第十三條第一項、第十五條ニ違背シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第二十四條　狩獵ニ關スル從前ノ規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

此ノ法律施行以前設定ノ免許ヲ受ケタル獵區ハ其免許期限間効力ヲ有

スルモノトス

第二十五條　此ノ法律施行以前免狀ヲ受ケタル者ハ更ニ免狀ノ下付ヲ要セス引續キ狩獵ヲ爲スコトヲ得

◉狩獵法施行細則

農商務省令第四號

狩獵法施行細則左ノ通相定ム

明治二十八年三月二十七日　農商務大臣　子爵榎本武揚

狩獵法施行細則

第一條　狩獵法第一條ニ掲クル各種ノ網ハ羅網、地網、震網其他ノ張網トシ竊繩ハ流シ竊、張竊繩トシ又撥ハ高撥、千本撥トス

第二條　銃器ノ制限ハ銃砲取締規則ノ定ムル所ニ依ル

第三條　狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ免狀ノ種類及住所族籍職業氏名年齢ヲ詳記シ且狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及若シ處罰ヲ受ケタルコトアルトキハ其年月日ヲ附記スヘシ

第四條　狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手數料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

前項ノ登記印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

第五條　狩獵免狀ヲ受ケタル者ニシテ族籍氏名ヲ變換シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ地方長官（東京府下ハ警視總監以下之ニ倣フ）ニ又其移轉ノ地、他ノ管轄廳ニ屬スルトキハ甲乙兩地ノ地方長官ニ三週日以内ニ屆出ツヘシ

第六條　禁獵制札ノ建設ヲ要スル者ハ其理由ヲ詳記シ地方長官ニ出願スヘシ但該建設費ハ出願者ノ負擔トス

第七條　地方長官ニ於テ建設スヘキ禁獵制札ノ雛形左ノ如シ　（雛形略ス）

第八條　共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル者ハ免許期限ヲ定メ其地形面積ヲ記載シタル圖面及其土地ニ於ケル狩獵ノ慣行ヲ詳記シタル書類ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

免許ノ繼續ヲ出願スルトキ亦同シ

第九條　共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル場所官有ニ屬スルトキハ豫メ管轄官廳ニ願出テ使用ノ許可ヲ受クヘシ若シ其場所他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ

前項ノ許可若クハ承諾ヲ受ケタルトキハ第八條ノ願書ニ其書類ノ寫ヲ添付スヘシ

第十條　共同狩獵地ノ區域ヲ變更セント欲スルトキハ其地形面積及變更

ノ區分ヲ明記シタル圖面ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

共同狩獵地ヲ廢シタルトキハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第十一條　共同狩獵地ニハ其周圍五十間ヲ起ヘサル距離毎ニ見易キ場所ヲ撰ヒ左ノ雛形ニ據リ木標ヲ建設シ其旨所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

（雛形略ス）

第十二條　公益ノ爲メ必要ト認ムルトキ又ハ免許人第十一條ノ制限ニ從ハサルトキハ共同狩獵地ノ全部若クハ一部ニ對シテ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條　第十一條第十二條ハ狩獵法第廿四條第二項ノ獵區ニモ適用ス

第十四條　左ニ掲クル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁止ス

一鶴　一燕（岩燕ヲ除ク）　一小雀（コガラ）　一日雀（ヒガラ）　一四十雀（シジフカラ）　一五十雀（ゴシフカラ）

一柄長（エナガ）　一鶺鴒（ミソサヽイ）　一杜鵑　一郭公（クワクコウ）　一三光鳥

第十五條　左ニ掲クル鳥類ハ三月十六日ヨリ十月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

一雉　一鶺雉（ヤマドリ）

第十六條　左ニ掲クル鳥類ハ四月十六日ヨリ八月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

一鶴鴿　一椋鳥（ムクドリ）　一鶸（ヒヽキ）　一雲雀　一鵯（ヒヨ）

一鵲（モズ）　一小啄木（コゲラ）　一雷鳥（ライチヨウ）　一松鶏（エゾヤマドリ）　一鳩（ドバトヲ除ク）

第十七條　牝鹿ハ十月一日ヨリ七月十五日マテ牝鹿ハ十月一日ヨリ十一月三十日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

第十八條　北海道ニ於テハ第十八條ノ保護期外タリトモ鹿ノ捕獲ヲ停止ス

第十九條　營業ノ爲メニ保護鳥獸ヲ飼養スル者ハ捕獲禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週日ヲ經過シタル翌日現在ノ名稱及員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

前項ノ鳥獸ニシテ蕃殖又ハ斃死シタルトキハ其年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

第二十條　保護鳥獸ヲ販賣シタルトキハ其買受人ノ住所氏名年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

銃砲取締規則

明治五年正月第二十八號布告

銃砲取締規則別紙之通被定候條來ル四月ヨリ規則之通可相守事

（別紙）

銃砲取締規則

第一則

一大小銃並ニ彈藥類商賈ノ儀ハ府縣共定員商賈ノ外取扱致間敷右定員ノ商賈ハ其地方管廳ニ於テ精選ノ上免許狀可差遣事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司ニ於テ管轄スヘキ事

免許商賈ノ定員

一府下　各五員

一縣下　各三員

一鎮臺本分營下　各一員

但府縣廳下開港場等ニアルハ別ニ設ケス

一開港場　各五員

右免許差遣候商賈ノ姓名住所等東京武庫司ヘ屆クヘキ事

第二則

一免許商人タリトモ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ窃ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨリ官ノ免許手形ヲ受取其員數ヲ照ラシ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳ヘ願出免許手形ヲ受其員數ヲ以テ買取可申事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司ヘ可願出事

一免許商人ハ陸海軍准士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃並ニ其彈藥類ヲ買入レントスルトキハ買入願書ニ其賣主ノ連署ヲ爲サシムヘキ事（明治三十年三月第八號布告ニテ本項追加ス）

第三則

一免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥類ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員數等明細附記シ軍用ノ者ハ免許手形相添毎月其管廳ヘ差出ス可シ其廳ヨリ毎月十日ヲ限リ管轄鎮臺ヘ差送可申事

但諸鎮臺ヨリ毎歲正月七月両度半ケ年明細帳ヲ以テ東京武庫司ヘ差送リ可申尤東京大阪ノ儀ハ武庫司ニ於テ取締可致事

第四則

一彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミヲ計リ勝手ノ場所ヘ差置間敷兼テ其地方管廳ヘ願出差圖ヲ受相圍可申事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司ヘ願出ヘキ事

第五則

一華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲幷彈藥類ピストル ニ至ル迄私ニ貯蓄相成候テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管轄廳ニ持出（東京大阪ハ武庫司ヘ持出）別紙銃砲改刻印式ノ通番號官印ヲ受可申他人ヘ讓與ヘ候節ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ

但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通リタルヘシ

銃砲改刻印ノ式

干支何番武庫司或ハ何府縣

右所持ノ人名番號等逐一書記シ置管轄鎭臺ヘ屆出鎭臺ヨリ東京武庫司ヘ差送可申事

免許ノ銃類

一和銃四文目玉八分以下

一各國獵諸銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレモ霰彈ヲ用ユルモノハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管廳ヘ屆出其廳ヨリ東京武庫司ヘ差出シ可申（東京大阪ハ所持ノ者ヨリ直チニ武庫司ヘ屆出ヘシ）萬一軍用獵用銃ノ差別難相辨者官ヘ尋出候得ハ檢査ノ上免許ノ證印ヲ据ヘ可相渡事

第六則（明治六年第二十五號布告鳥獸規則ヲ以テ廢ス故ニ略ス）

第七則

一銃砲彈藥下々ニ於テ猥リニ製造不相成候尤モ新ニ奇巧便利ヲ發明シ爲試製造作致度者ハ其管廳ヘ相願管轄鎭臺ヘ屆出免許ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎭臺ヨリ武庫司ヘ差送リ檢査ヲ遂ケ採用ス可相成分ハ西洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可有之事

是迄銃砲並彈藥類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺書記漏シ管轄廳ヘ爲指出其廳ヨリ東京武庫司ヘ可差出事

但東京大阪ノ儀ハ賣買ノ者ヨリ直ニ武庫司ヘ可屆出事

右之通ニ候事

◉銃砲取締規則違犯者處分方（明治五年九月第二百八十二號布告）

銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥ヲ窃ニ所持シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五拾錢ノ過料可申付候事

但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金可被下候事

一免許ヲ得スシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以内ノ過料可申付事（明治七年十二月第百三十二號布告ニテ追加）

但書同前

右取上候品東京大阪ハ武庫司其他ハ所管ノ鎮臺ヘ可差出事

火藥取締規則

明治十七年十二月第三十一號布告

火藥取締規則別冊ノ通制定ス

但從前ノ成規中此規則ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ス

（別冊）

火藥取締規則

第一章　總則

第一條　凡火藥劇發火藥（棉火藥ナイトログリセリン、ダイナマイト、雷汞、其他劇發質ノ物品）ハ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス但烟火マッチノ類ハ此限ニアラス

第二條　火藥類（火藥劇發物ヲ云フ）ノ賣買營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ願出免許鑑札ヲ受ク可シ

但營業者ハ一管内二十五人以内トス

第三條　火藥類ハ營業者ニ限リ陸軍海軍両省ヨリ其貯藏品ヲ拂下ク可キモノトス

第四條　管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ於テ火藥類ノ檢査ヲ必要ト認ムル時ハ營業者タルト否トヲ問ハス警察官ヲシテ之ヲ檢査セシムルコトアル可シ

第五條　戰時若クハ事變ニ際シテハ陸軍卿海軍卿ハ火藥類ノ拂下ヲ停止シ内務卿ハ其賣買運搬ヲ停止スルコトアル可シ

第六條　火藥類ハ官許ヲ得ルニ非サレハ日出前日没後ニ於テ賣買運搬其他荷造等ヲ爲ス可ラス

第二章　賣買

第七條　營業者ハ毎月買受ケタル火藥類ノ種類數量ヲ記シ（證書アレハ之ヲ添ヘ）翌月十日迄ニ所轄警察署ニ屆出ヘシ

第八條　營業者ニ非スシテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ營業者ハ其賣渡證書ヲ取リ置ク可シ

第九條　營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟花其他職業用ニ限リ火藥類ヲ賣渡ス可キモノトス

但十六歲未滿若クハ白痴瘋癲ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サス

第十條　火藥類ヲ買受ケントスル時銃獵若クハ烟花製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲ニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍人ノ射的用ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ坑業土工其他職業用ニ供スル者ハ其旨趣及種類數量并使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス（十九年勅令第六十七號ニテ本條各項改正セラル）

小銃用	火藥（大砲一門ニ付三百目、小銃一挺ニ付火藥五十發分）	雷管（導火管類雷管）	五百箇（七十個百五十個）
船舶設備銃砲用	火藥百發分		
烟火製造用	五貫目		
坑業土工其他職業用	二百貫目（火藥 三拾貫目 爆發火藥）		

坑業土工用ノ爲メ特ニ多量ノ火藥類ヲ要スル者ハ其旨趣數量並使用ノ場所等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ內務大臣ノ特許ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ直ニ陸海軍兩省ヨリ火藥類ノ拂下ヲ受クルコトヲ得

第十一條　營業者ハ買受人ノ免狀ヲ檢シ若クハ許可証ヲ受取リ火藥類ヲ賣渡ス可シ但第十條ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

第十二條　營業者ハ每月火藥類賣受人ノ住所姓名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シ（証書アシハ之ヲ添ヘ）翌月十日迄ニ所轄警察署ニ屆出可シ

第三章　貯藏

第十三條　火藥類ハ火藥三百目雷管導火管類五百個迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得

營業者ハ前項制限ノ外火藥十貫目劇發火藥一貫目雷管導火管類一萬個迄烟火製造人ハ火藥五貫目劇發火藥五貫目迄ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ノ許可ヲ受ケ倉庫ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得

其數量ヲ超ル時ハ火藥庫ノ外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥五百貫目以上劇發火藥五十貫目以上ハ火藥庫ト雖モ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス

第十四條　火藥類ヲ一庫內ニ貯藏スル時ハ其種類每ニ不燃質物ヲ以テ之ヲ區畫ス可シ

第十五條　火藥庫ヲ建設セントスル者ハ其位置並ニ建設ノ方法書及近位ノ地圖ヲ添ヘ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ願出許可ヲ受クヘシ

第十六條　火藥庫ハ皇居離宮ノ區域ヲ距ル十町以內ノ地ニ建設スルコトヲ許サス

第十七條　火藥庫ハ皇陵社寺公園家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱渠船ノ通スヘキ河湖及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ

第十八條　火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ家根ハ輕重ノ不燃質物ヲ用ヒ內部ニハ鐵釘石瓦ヲ露ハサス窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フ可カラス又避雷針ヲ設ケ庫外ノ周圍ニ二間以上ヲ隔テ、高サ六尺以上ノ土堤ヲ築キ其入口ニ火藥庫ト書シタル標木（曲尺六尺以上ニシテ五寸角以上ノモノ）ヲ建ツ可シ

第十九條　火藥庫ヨリ十四間以內ノ地ニ材木草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可

ヲス又五十間以内ニ於テ火ヲ取扱フ建造物ヲ設ケ若クハ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ若クハ發火質ノ物品ヲ蓄積ス可ラス

第二十條　坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ノ爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケントスル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳東京府ハ警視廳ニ願出許可ヲ受ヘシ但第十條制限以上ノ火藥類ヲ貯藏セントスルモノニ對シテハ管轄廳ニ於テ特ニ其距離ヲ指定スルコトアル可シ（十九年勅令第六十七號ヲ以テ改正）

第二十一條　烟火製造所ハ家屋若クハ火ヲ取扱フ場所ヨリ十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ又五貫目以上ノ火藥類ヲ置ク可ラス

第四章　運搬

第二十二條　五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場所及水陸通路ノ名稱ヲ記シ所轄警察署ノ許可証ヲ受ケ之ヲ携帶シ運搬畢ラハ直ニ之ヲ返納ス可シ若シ其警察署管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ納ム可シ

第二十三條　五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スル時ハ鉄釘鉄輪ヲ用ヒサル木製銅製若クハ亞鉛製ノ器ニ入レ其外部ハ筵包若クハ繩卷ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗（陸路ニハ曲尺縦二尺横二尺五寸水路ノ小船ニハ曲尺縦三尺ヲ建テ護送人ヲ附ス可シ但船積スル時ハ明治六年（八月）第五寸横五尺二百九十二號布告危害品船積法ニ從フ可シ）

第二十四條　火藥類ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ撰ヒ看守人ヲ附ス可シ

第五章　罰則

第二十五條　私ニ火藥類ヲ製造シ若クハ販賣シタルモノハ軍用品ニアラスト雖モ刑法第百五十七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第百六十條ヲ適用ス

第二十六條　刑法第百五十八條第百五十九條第百六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十七條　私ニ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　第四條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第十條第十一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十一條ニ違犯シタル者又ハ營業者賣買ヲ除クノ外火藥類ヲ讓受若クハ讓渡シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス（十九年勅令第六十七號ヲ以テ違犯シノ下又ハ第二十條ノ制限ヲ超テ貯藏シノ十五字削除）

第二十九條　第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第二十二條第二十三條第二十四條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條　營業者此ノ規則ニ違犯シタル時ハ其情狀ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

●爆發物取締罰則　明治十七年十二月第三十二號布告

爆發物取締罰則左ノ通制定ス

（別冊）

爆發物取締罰則

第一條　治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス

第二條　前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

第三條　第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條　第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止マル者ハ重懲役ニ處ス

第五條　第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供スヘキ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條　爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條　爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ラントスル人ニ告知スヘシ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條　本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條　本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歲未滿ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條　第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ

其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條　本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ所斷ス

●石油取締規則

明治廿年九月第六號布告

明治十四年八月第四十號及ヒ同年九月第五十號布告石油取締規則左ノ通改正ス

石油取締規則

第一條　石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焰試驗法ヲ用ヒ攝氏驗溫器三十度（華氏八十六度）以上ノ溫度ニ達セサレハ發焰セサルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發焰スルモノヲ第二種トス

第二條　點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化學工藝上ニ於テ藥用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス

第三條　石油營業者ヲ分テ壙業者製精者問屋及小賣商ノ四種トス其營業ハ都テ管轄廳（東京府下ハ警視廳）ノ許可ヲ受クヘシ但二類以上兼業スル時ハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條　石油ノ種類ハ內務卿ノ必要トスル地方ニ於テ檢査員ヲシテ之ヲ檢査セシムヘシ

石油ハ檢査濟ノ證アルモノニアラサレハ之ヲ販賣スルヲ許サス但壙業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限リニアラス

第五條　檢査濟ノ石油ヲ家屋內ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五石以內第二種ノ石油五斗以內トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ

第六條　石油營業者前條制限外ノ石油并檢査未濟ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳（東京府下ハ警視廳）ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノトス

第八條　第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取リ置キ一年間保存スヘシ但販賣時限ハ日出ヨリ日沒マテトス

第九條　石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルヿヲ表記スヘシ但其積卸ニ必要ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置クヘカラス

第十條　此規則ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

◉醫師免許規則

明治十六年十月二十三日布告第三十五號

第一條　醫師ハ醫師開業試驗ヲ受ケ內務卿ヨリ開業免狀ヲ得タルモノトス但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトス

第二條　開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ內務省ニ願出ツ可シ

第三條　官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ內務卿ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアル可シ

第四條　外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ內務卿ヨリ其證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルヿアル可シ

第五條　醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ內務卿ハ醫術開業試驗ヲ經サル者ト雖ヒ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアル可シ

第六條　開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手數料金三圓ヲ納ム可シ

第七條　開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ內務省ノ醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告ス可シ

第八條　開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ內務省ニ願出ツ可シ

第九條　開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手數料金壹圓ヲ納ム可シ

第十條　醫術開業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ內務省ニ返納ス可シ

第十一條　醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經內務卿ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアル可シ但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖モ本條ニ準シ處分スルコトアル可シ

第十二條　前條ニ依リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直ニ開業免狀ヲ取上ケ之ヲ內務省ニ返納ス可シ其停止ノ處分ニ係ル者ハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ廳印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付ス可シ

第十三條　內務卿ハ醫禁止ノ處分ヲ爲シタル後ヽ雖トモ本人ノ行狀ヲ勘査シ中央衛生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアル可シ

●獸醫免許規則

明治二十三年八月
法律第七十六號

獸醫免許規則

第一條　獸醫ノ開業ハ農商務大臣ヨリ獸醫免狀ヲ受ケタル者ニ限ル

第二條　獸醫免狀ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ

一　獸醫免許試驗ニ合格シ其ノ證書ヲ有スル者

一　官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

一　公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

一　外國ニ於テ官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

第三條　第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ獸醫免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試驗及第證書又ハ卒業證書ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第四條　獸醫免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第五條　獸醫廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以內ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第六條　獸醫免狀ヲ受クル者ハ其ノ免狀下付ノトキ手數料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ　▲(登錄稅法參着スヘシ)

第七條　獸醫免狀ヲ毀損亡失シ若ハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ書換ノ免狀ヲ受クル者ハ免狀下付ノトキ手數料トシテ金五拾錢ヲ納ム

ヘシ

第八條　獸醫業ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ農商務大臣ハ情狀ヲ參酌シ五日以上五十日以下ノ範圍内ニ於テ其ノ業ヲ停止シ情狀ノ最モ重キモノハ之ヲ禁止スルコトアルヘシ

禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ獸醫免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第九條　第八條ノ禁止ノ處分ヲ爲シタル者ト雖モ三年ヲ經過シタル後情狀ニ依リ其ノ禁止ヲ解クコトアルヘシ

禁止ヲ解カレタル者ニシテ再ヒ獸醫免狀ヲ受ケント欲スル者ハ第三條及第六條ニ依ルヘシ

第十條　免狀ヲ受ケスシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　獸醫業停止中其ノ業ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　獸醫正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依賴ヲ拒ミタルトキハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條　獸醫免許試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十四條　獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ獸醫假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十五條　第十四條ニ依リ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十六條　明治十八年第十七號布達獸醫開業試驗規則其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル規定ハ總テ廢止ス

●種痘規則

明治十八年十一月第二十四號布告

種痘規則左ノ通制定シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

但明治九年內務省甲第八號及甲第十六號布達ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

種痘規則

第一條　種痘ハ小兒出生後滿一年以內ニ之ヲ行フヘシ若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年內ニ再三種ヲ行フヘシ

第二條　種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ二種ヲ行フヘシ

第三條　天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラス掛官吏ノ指定シタル期日內ニ種痘ヲ行フヘシ

第四條　種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フヿ能ハサル病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ證印ヲ爲シタル證書ヲ副ヘ戶長役場ニ屆出ヘシ

第五條　種痘ヲ受ケシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條　種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ戶長役場ニ屆出ヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スヘシ

第七條　十六歲未滿ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スヘシ

貧院育兒院等ヘ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ

第八條　醫師ハ種痘善感不善感ヲ檢診シ種痘證ヲ付與スヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準シ其證ヲ附與スヘシ

第九條　第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十條　府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ每年一月七月ノ兩度內務卿ニ報告スヘシ

第十一條　此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ內務卿ニ屆出ヘシ

●傳染病豫防法

明治三十年三月法律第三十六號

傳染病豫防法

○傳染病豫防法

第一條　此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸窒扶私、寂瘡發疹窒扶私、猩紅熱、實布垤利亞（格魯布ヲ含ム）及「ペスト」ヲ謂フ

前項ニ掲クル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條　傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第三條　醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ屆出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第四條　傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ屆出ヘシ

前項ノ屆出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戸主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場其他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條　傳染病患者アリタル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ

當該吏員ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ其ノ近隣ノ家又ハ患家ト交通ヲ爲シタル家ニモ清潔方法及消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第六條　清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舍ニ入ラシムヘシ

健康者ノ隔離ヲ必要ト認ムルトキハ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得

第八條　當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家及其ノ近隣ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第九條　傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス

第十條　傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條　傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時

間内ニ埋葬スルコトヲ得

第十二條　傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但シ公共ノ工事ノ爲必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　死體ヲ既ニ埋葬シ若ハ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者クリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條　傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戶主、首長又ハ管理人ニ告知シ家屋、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但シ當該吏員タルノ證票ヲ示スヘシ

第十五條　傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第六十一條町村制第六十五條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ス豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其醫師ヨリ出ツル者ハ市町村長之ヲ撰任ス

第十六條　市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具、藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ

第十七條　市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病舍、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ

傳染病院、隔離病舍、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第十八條　傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶瀕車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

船舶瀕車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ船舶瀕車ノ乘客乘組人ニシテ病毒感染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニシテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶瀕車中ニ乘込マシムルコトヲ得

船舶瀕車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ其ノ地市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舍ニ收容治療セシムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之カ爲特ニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得

前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶滊車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

一　傳染病患者ノ有無ヲ檢診セシムルコト

二　市街村落ノ全部又ハ一部ノ交通ヲ遮斷スルコト

三　祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若ハ禁止スルコト

四　古着、襤褸、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ヲ廢棄スルコト

五　傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト

六　船舶ニ醫師ノ雇入ヲ命シ又ハ滊車船舶若ハ多數人民ノ集合スル場所ニ豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト

七　清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸、上水、下水、溝渠、非溜、厠圊ノ新設改築變更若ハ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト

八　一定ノ場所ノ漁撈游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スルコト

第二十條　諸官廳、集治監及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ

陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若クハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此ノ法律ニ準シ各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ

第二十一條　左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス

一　豫防委員ニ關スル諸費

二　市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費

三　豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員竝豫防上必要ナル器具藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費

四　傳染病院、隔離病舍、隔離所及消毒所ニ關スル諸費

五　豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、弔祭料

六　第八條ニ依レル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費

七　市町村内ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費
其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十二條　左ノ諸費ハ府縣税又ハ地方税ノ負擔トス

一　檢疫委員ニ關スル諸費
二　船舶又ハ瀕車ノ檢疫ニ關スル諸費
三　第十九條第二ニ依レル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費
其ノ他府縣ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十三條　地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得
市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條　第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ府縣税又ハ地方税ヨリ市町村ニ補助スヘシ

第二十五條　國庫ハ第二十二條第二十四條ノ府縣税又ハ地方税ノ支出ニ對シ其ノ六分一ヲ補助スルモノトス

第二十六條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セス又ハ之ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要ノ時限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ
此ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徵スルコトヲ得
私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國税滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十七條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施爲スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限内ニ施爲シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣税又ハ地方税ヲ以テ之ヲ施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徵スルコトヲ得私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國税滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十八條　第二十六條及第二十七條ノ費用追徵ニ關シ不服アル私人ハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第二十九條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサル者ハ五圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十條　醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ撿案シタル後十二時間以内ニ屆出ヲ爲サス又ハ虚僞ノ轉歸屆ヲ爲シタルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　第四條第五條第一項第九條第十條第十一條第一項第十二條ニ違背シタル者第五條第二項ニ依リ清潔方法及消毒方法ヲ施行セサル者交通遮斷ヲ犯シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ屆出ヲ爲サシメス若ハ其ノ屆出ヲ妨ケタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十二條　此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制町村制ヲ施行セサル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條　此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二十五條ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第三十六條　明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●獸疫豫防法　明治廿九年三月　法律第六十號

第一條　此ノ法律ニ獸類ト稱スルハ牛馬羊豕犬ヲ謂ヒ獸疫ト稱スルハ左ノ十病ヲ謂フ

一　牛疫
二　炭疽
三　氣腫疽
三　鼻疽及皮疽
五　傳染性胸膜肺炎
六　流行性鵝口瘡
七　羊痘
八　豕虎列刺
九　豕羅斯疫
十　狂犬病

第二條　獸類疫ニ罹リタルコト若ハ其ノ疑アルコトヲ發見シタル所有者管理人又ハ獸醫ハ直ニ其旨ヲ所轄警察署又ハ市町村長（特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長市制町村制施行セサル地方ニ於テハ區戸長又ハ之ニ準スヘキ者）ニ届ケ撲殺シタルトキ亦同シ

第三條　獸類獸疫ニ罹リタルトキ若ハ其ノ疑アルトキハ所有者亦ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ鎖錮シ若ハ健獸ト隔離シ其ノ監督ヲ承クヘシ

第四條　牛疫感染ノ疑アリ又ハ之ニ罹リタル牛羊及狂犬病ニ罹リタル犬ハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ撲殺スヘシ

前項ノ所有者又ハ管理人現場ニ在ラサルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ニ於テ直ニ撲殺シ及病毒ニ汚染シ又ハ其疑アル物品ヲ燒棄埋却シ若ハ之ニ消毒ヲ行フコトヲ得

第五條　地方長官（東京府ハ警視總監以下之ニ倣フ）ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ病性鑑定ノ爲剖檢ヲ要スル獸類ヲ撲殺シ又ハ鼻疽及皮疽傳染性胸膜肺炎豕虎列拉豕羅斯疫ニ罹リタル獸類ノ撲殺ヲ命スルコトヲ得

第六條　所有者又ハ管理人第四條ノ指揮ニ從ハス及前條ノ命令ニ從ハサルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ニ於テ直ニ撲殺スルコトヲ得

第七條　病性鑑定ノ爲撲殺シタル獸類ヲ除クノ外此ノ法律ニ依リ撲殺シ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ屍體ハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ燒棄又ハ埋却スヘシ

前項ノ屍體ハ各部ヲ截取シ又ハ剖檢ヲ爲スコトヲ得ス但シ病性鑑定又ハ學術研究ノ爲特ニ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第八條　所有者又ハ管理人ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ燒棄埋却シ若ハ之ニ消毒ヲ行フヘシ所有者管理人車長又ハ船長ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ獸疫ニ罹リ若ハ其ノ疑アル獸類ヲ繫留シタル場所滊車船舶等ニ消毒ヲ行フヘシ」

所有者又ハ管理人前二項ノ指揮ニ從ハサルトキ及車長船長前項ノ指揮ニ從ハサルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ハ直ニ燒棄埋却シ若ハ消毒ヲ行フコトヲ得

第九條　此ノ法律ニ依リ撲殺ニ罹リ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ屍體及病毒ニ汚染シタル物品ノ埋却地ハ發掘若ハ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　第四條第五條及第八條第一項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ三人以

上ノ評價人ヲシテ物品及發病前ノ獸類ノ價格ヲ評價セシメ左ノ標準ニ依リ所有者ニ手當金ヲ下付ス其ノ評價額ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲシテ評價セシムルコトヲ得

一　牛疫鼻疽及皮疽傳染性胸膜肺炎豕虎列刺豕羅斯疫ニ罹リ撲殺シタル獸類　評價額三分ノ一

二　病性鑑定ノ爲撲殺シタル獸類評價額五分ノ三

三　牛疫ニ感染ノ疑アル爲撲殺シタル牛羊評價額五分ノ四

四　燒棄又ハ埋却シタル物品　評價額二分ノ一

手當金額ハ第一ノ場合ニ於テハ一頭百五拾圓第三ノ場合ニ於テハ一頭貳百圓第四ノ場合ニ於テハ總計拾圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第十一條　此法律ニ依リ左ニ掲クル獸類ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄若ハ埋却シタルトキハ手當金ヲ下附セス

一　第二條ニ違背シ屆出ナキ獸類及之ニ觸接シタル物品

二　第六條ノ場合ニ於ケル獸類及第八條第一項ニ違背シタル場合ニ於ケル物品

三　狂犬病ニ罹リタル犬及其ノ病毒汚染ノ疑アル物品

四　第十二條ノ命令ニ違背シ移動シタル獸類及物品

五　第十五條ノ命令ニ違背シ檢疫ヲ受ケス又ハ輸入シタル獸類及物品

第十二條　地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ獸類ノ種類ヲ限リ其ノ出入往來幷病毒傳播ノ疑アル物品ノ運搬ヲ停止スルコトヲ得

第十三條　地方長官ハ獸疫流行中必要ト認ムルトキハ屠獸場及獸類化製場ノ營業ヲ停止シ又ハ獸類ノ種類ヲ限リ其ノ市場共進會等ノ開設ヲ停止スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨農商務大臣ニ屆出ヘシ

第十四條　地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ限リ健獸ノ檢査ヲ行フコトヲ得

第十五條　外國ヨリ獸疫侵入ノ危險アリト認ムルトキハ有病地ヨリ又ハ有病地ヲ經テ輸入スル獸類及物品ノ檢疫ヲ行ヒ若ハ其ノ輸入ヲ停止スルコトヲ得

第十六條　獸疫豫防ニ關スル費用ハ國庫府縣市町村及一個人ノ負擔トス其ノ負擔ノ區分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　第四條第一項ニ違背シタル者第五條ノ命令ニ違背シタル者及第十五條ノ檢疫ヲ受ケス又ハ輸入停止ニ違背シタル者ハ五圓以上百圓

以下ノ罰金ニ處ス

獸醫第二條ニ違背シタルトキハ罰前項ニ同シ

第十八條　第七條第八條第一項第二項第九條ニ違背シタル者及第十三條ノ命令ニ違背シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

所有者又ハ管理人第二條ニ違背シタルトキハ罰前項ニ同シ

第十九條　第三條ニ違背シタル者及第十二條ノ命令ニ違背シタル者ハ刑法第二百四十九條ノ例ニ依リ處罰ス

第二十條　第一條ニ掲ケタル獸類獸疫ノ外獸畜傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ勅令ヲ以テ此ノ法律ノ全部又ハ一部ヲ他ノ獸畜又ハ他ノ獸畜傳染病ニ適用スルコトヲ得

第二十一條　此ノ法律施行ニ關スル規則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第二十二條　此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

獸畜傳染豫防ニ關スル從前ノ規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○車稅規則　明治八年二月二十日布告第二十七號

第一則

一馬車二匹立以上　一箇年稅金三圓

一同　一匹立　一箇年稅金貳圓

一荷積馬車　一箇年稅金壹圓

一人力車二人乘　一箇年稅金貳圓

一同　一人乘　一箇年稅金壹圓

一牛車　一箇年稅金貳圓

一荷積大七大八車　一箇年稅金壹圓

一荷積中小車但大六以下　一箇年稅金五拾錢

第二則

一新調ノ車ハ總テ其都度區戶長ヘ屆出檢印可申受事

但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ニ更ニ檢印可申受事

第三則

一新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則

一右稅金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戶長ヘ取集メ其管轄廳ヘ可相納事十一年第四號布告ニ依リ消滅ニ係ルヲ以テ但書ヲ除ク

第五則